

兵庫医科大学
自己点検・評価年次報告書

2021年度



兵庫医科大学

目 次

発刊にあたって	1
第1章 2021年度 兵庫医科大学重点課題 達成状況	3
(1) 2021年度 兵庫医科大学重点課題一覧	4
(2) 各重点課題総括	5
第2章 2021年度 各委員会の目標達成状況	19
(1) 年度目標の設定該当委員会等一覧	20
(2) 2021年度 委員会計画達成状況調査票	21
第3章 医学教育分野別評価受審とその評価結果	
及び新たな医学部の使命の策定について	45
(1) 医学教育分野別評価受審とその評価結果について	46
(2) 新たな医学部の使命の策定について	48
データブック	49
学校法人兵庫医科大学 建学の精神	50
兵庫医科大学 使命・目的・教育目標	51
学校法人兵庫医科大学 第3次中期事業計画 2018～2022	53
兵庫医科大学 沿革	54
学校法人兵庫医科大学 組織図	56
兵庫医科大学 組織図	57
兵庫医科大学医学部・大学院関係各種データ	58

発刊にあたって

本書は、本学の内部質保証活動の一環として、2021 年度における本学の教育研究等の事業活動の点検・評価結果を取りまとめたものです。2020 年春に始まった新型コロナウイルス感染症の流行は、これまで経験したことのない事態であり、新たに起こる問題に対しいかに教育の質を落とさず対応するかを、その都度考え、模索しながら進めてまいりました。2021 年度は、コロナ禍のもとでの大学運営も 2 年目に入り、昨年度の対応を振り返りながら、「With & Post コロナ」の時代に向けた教育体制を構築する 1 年間となりました。本書を通じて、本学の目指す教育への取り組みをご理解いただけますと幸いです。

また、2022 年度より兵庫医科大学は、医学部、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部の 4 学部を擁する医系総合大学として、新たなスタートを切ります。

本学は 1972 年の開学より、「社会の福祉への奉仕」「人間への深い愛」「人間への幅の広い科学的理解」を建学の精神として掲げ、全人的医療を実践できる良医育成を目指してまいりました。この建学の精神を基に、「EMPOWER THE PEOPLE 心に響く医を、私たちがいるかぎり」を新たなスローガンとし、「一人ひとりの人生が豊かな社会」が実現するよう、地域社会から求められる医療人を育成し、多様な社会に応えることが、新しい兵庫医科大学の目指す姿です。

学部の新設に伴い、2022 年度からは、新たな組織運営体制のもと、自己点検・評価活動が行われます。単科大学としての自己点検・評価報告書の発行は、今回をもって終了となりますが、今後も、本学の目的及び使命を達成するため、教育研究、管理運営等の諸活動の状況について自ら点検・評価を行い、社会に公表することで、恒常的かつ継続的な改善に取り組んでまいります。

兵庫医科大学 学長

野口 光一

第 1 章

2021 年度 兵庫医科大学重点課題 達成状況

(1) 2021 年度 兵庫医科大学重点課題一覧

(2) 各重点課題総括

2021年度兵庫医科大学重点課題

- ・With & Post コロナ時代の教育体制の構築
＜学長・鈴木副学長・石戸教務部長＞
- ・大学統合後の医学部運営体制の構築と組織改革の継続
＜学長・三輪副学長＞
- ・大学統合後の入試制度の改革、評価
＜八木入試センター長＞
- ・学部教育・国家試験対応の充実
＜石戸教務部長＞
- ・大学統合及び組織改編を見据えた臨床実習の改善
＜石戸教務部長・池内副学長＞
- ・卒後教育体制・初期臨床研修の改善と卒前教育との連携
＜阪上病院長・鈴木副学長・池内副学長＞
- ・大学院教育の改善と入学者増などの活性化
＜小山副学長＞
- ・研究活動の活性化と外部研究資金獲得に向けた対策
＜小山副学長＞
- ・教員任期制・教員評価などの制度改革とその実行
＜学長＞
- ・50周年事業の遂行と卒業生／在学生の帰属意識の向上
＜学長・長谷川学生部長・池内副学長＞

2021 年度兵庫医科大学重点課題 総括

【重点課題名】 With & Post コロナ時代の教育体制の構築

【記入者名】 学 長

2021 年度は、Moodle での録画講義配信による Web 講義と対面授業とのハイブリッドで授業を実施した。2020 年度の講義収録システムの導入に続いて 2021 年度は講義配信システムの導入を行い、遠隔授業に係る環境整備を行った。通常の講義室での講義においては全講義を録画しオンデマンドで配信を実施した。また、対面講義においては座席指定を行い、机の清掃を毎朝実施した。臨床実習においては感染対策を十分行ったうえで原則として通常の予定で実施した。

学生のコロナワクチンの接種を実施し感染対策を強化したが、2022 年 1 月には学生の感染者が急増し接触者等の登校禁止学生が増加した為、追試験実施、別室受験等の例外的な対応について検討を行い実施した。

<学内の感染予防対策について>

感染予防対策として、各所に手指消毒剤の設置、学生食堂、学生ラウンジ等の飛沫防止パネルの更新、設置を行い感染対策の充実を図った。教育研究棟入口にサーモグラフィの設置を行い、感染防止を強化するとともに学生に対して感染状況に合わせた行動指針を示し、マスクの適正着用、検温、手指消毒、学内施設ルール等日頃の感染予防の注意喚起を行った。

<学事の実施について>

学事について、感染防止対策を講じながら、挙行可能と判断した行事について執り行った。

(学部入学式)

式次第の割愛、参列者の制限（父兄は入学生 1 名につき 2 名まで、学内は法人役員・教員役職者のみ、来賓は後援会長、同窓会長のみ）により式典の規模を縮小、会場の座席使用制限、手指消毒液・飛沫防止パネルの設置等、感染防止対策を講じた上で挙行した。

(学部卒業式)

式次第の割愛、参列者の制限（父兄は卒業生 1 名につき 2 名まで、学内は法人役員・教員役職者のみ、来賓は後援会長、同窓会長のみ）により式典の規模を縮小、会場の座席使用制限、手指消毒液・飛沫防止パネルの設置等、感染防止対策を講じた上で挙行した。

(篤志解剖体慰霊祭)

式次第の割愛、参列者の制限（ご遺族・登録者は 2 名まで、在学生は第 2 学年次生全員・第 4 学年次生は班の代表者 1 名のみ、来賓はなし）により式典の規模を縮小、会場の座席使用制限、手指消毒液・飛沫防止パネルの設置等、感染防止対策を講じた

上で挙行了た。

(OSCE、Pcc-OSCE)

模擬患者について、昨年度同様、学内教職員での対応に切り替えて実施した。

(オープンキャンパス)

完全予約制で来場者数を制限したうえで、来場型オープンキャンパスを2日間実施した。また、並行してWebオープンキャンパスも公開した。

(入学試験)

文部科学省のガイドラインに基づき感染症拡大防止対策を講じた上で、学校推薦型選抜及び一般選抜を実施した。また、一般選抜A(4科目型)については、昨年度同様、新型コロナウイルス感染症に罹患した等の理由で受験できなかった志願者の受験機会を確保するため、追試験を実施した。

2021 年度兵庫医科大学重点課題 総括

【重点課題名】 大学統合後の医学部運営体制の構築と組織改革の継続

【記入者名】 野口学長、三輪副学長

兵庫医科大学と兵庫医療大学の統合に向けて 2022 年度の本学の基本組織体制の構築に取り組み、各種組織運営規程も整備した。以下に、主な組織改革を示す。また、次ページに兵庫医科大学の基本組織図を示す。

1. 「大学運営会議」の設置

兵庫医科大学は医学部、医学研究科に加えて薬学部、看護学部、リハビリテーション学部、薬学研究科、看護学研究科、医療科学研究科を設置し、4 学部 4 研究科体制となることから、大学の最高意思決定機関として大学運営会議を新設した。

2. 「キャンパス協議会」の設置

西宮・神戸の両キャンパスでの学部間の調整・連絡及び意見交換を行うために両キャンパスに「西宮キャンパス協議会」「神戸キャンパス協議会」を新設した。

3. 「臨床教育統括センター」の設置

卒前卒後の臨床教育の充実を目的として、医療人育成研修センターを発展的に解消し、臨床教育統括センターを新設した。当センターは、医学、医療の進歩及び社会の変化に即応し、多職種連携協働（IPW＝Interprofessional Work）による医療を実践し得る人材を養成するため、多職種連携教育（IPE＝Interprofessional Education）の開発、推進とともに、学生の臨床実地教育の充実、卒前・卒後の一貫した教育体制の構築、本学及び地域の医療専門職者等への IPE 並びにキャリア支援を行う。

4. 「アドミッションセンター」の設置

本学にふさわしい学生の募集ならびに選抜の方法等を総合的に企画立案するアドミッションセンターを新設した。

5. 「社会学連携・研究推進センター」の設置

本学における知の創造とその還元により広く社会に貢献するため、これらの基盤となる研究活動の推進とともに、産業界、自治体、地域コミュニティ等社会と課題を共有して、共同研究、生涯教育などの教育研究活動を通じた大学と社会との連携を推進する社会学連携・研究推進センターを新設した。

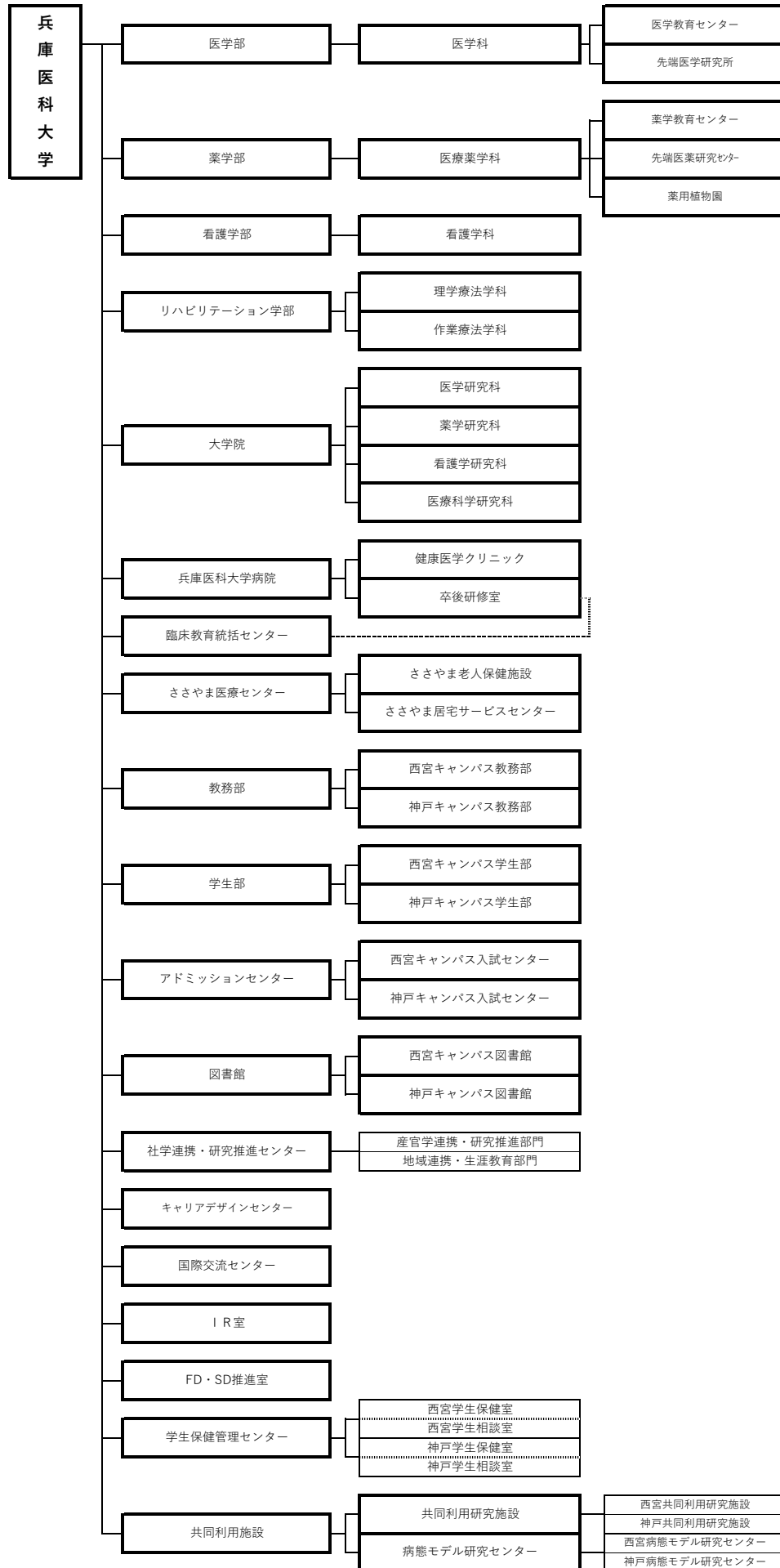
6. 「FD・SD 推進室」の設置

ファカルティ・ディベロップメント（FD）及びスタッフ・ディベロップメント（SD）を積極的に推進するため、FD・SD 推進室を新設した。

7. 「薬学教育センター」の設置

薬学、医療の進歩及び社会の変化に即応した薬学教育を包括的に推進するため薬学部に薬学教育センターを新設した。

兵庫医科大学基本組織図（2022年度）



2021 年度兵庫医科大学重点課題 総括

【重点課題名】 大学統合後の入試制度の改革、評価

【記入者名】 入試センター長 八木秀司

大学の統合後の入試体制について藤岡兵庫医療大学学長を長とする入試・広報部会にて検討を行った。統合後は、入試広報担当副学長をセンター長とするアドミッションセンターが大学全体の入試・広報活動を担い、入試に関する両キャンパスの課題を入試センター会議で検討することとなった。大学にアドミッションオフィサーを置くこととなり、アドミッションセンターでの業務を担うことになった。また、西宮キャンパス、神戸キャンパス両キャンパスの入試制度が大きく異なる事から各キャンパスで入試制度を検討する西宮キャンパス入試センター、及び神戸キャンパス入試センターを配置し、両キャンパスに入試検討委員会を設置することが決まった。さらにアドミッションセンターとは独立した入試運営委員会を両キャンパスに設置し、入試の運営を行うことになった。以上の様に統合後の入試体制は決定した。

また、大学統合後、多職種連携を担う人材の確保のため、医学部として総合型入学者選抜を新たに行い、その人材確保を滞りなく進めるため、総合型入学者選抜のなかに卒業生子女枠を設置した。以上の様に、現状の沿いながら統合後に向けた改革は進められた。

今後の課題としては、次年度以降、統合におけるメリットが発揮されるか、広報活動などを神戸キャンパスと連携して行う必要がある。また、新たに設けた総合型入学者選抜の運営を支障なく行うこと、特に志願者の確保と共に総合型入学者選抜に設けられるプレゼンテーション試験の適切な問題の作成が課題としてあげられる。また、志願者の減少が続いており、統合後の広報活動が志願者の確保につながるかが課題である。

2021 年度兵庫医科大学重点課題 総括

【重点課題名】 学部教育・国家試験対応の充実

【記入者名】 石戸 聡

【振り返り・総括】

学部教育では、①学修方法指導・支援などの工夫による学生教育の充実、②高学年次の成績不良者（在学年限の上限に達する者を含む）への対策の強化、③臨床実習の改善及びアウトカム評価の実施、④上記達成のためのFD活動の実施、⑤医学教育分野別認証の受審への対応を計画して取り組んだ。

カリキュラムの充実ならびに共用試験・国家試験対応では、①第4学年次に対してCBT対策の強化、共用試験不合格による早期留年決定者を対象とした特別カリキュラムの実施、②臨床実習評価の見直し（知識・技能・態度の独立評価、アンプロフェッショナル行動の評価取入れ）、③第5学年次に対して早期国試対策の強化、留年生を対象とした特別カリキュラムの実施、④第6学年次に対して特別補習（合宿／セミナー形式）の強化・実施、留年生を対象とした特別カリキュラムの実施、卒業判定の厳格な実施、を計画して取り組んだ。

本学の医学教育について国際基準による質保証を受けるため、日本医学教育評価機構（JACME）による医学教育分野別評価を2021年6月に受審した。カリキュラム評価委員会、学修成果作成委員会、カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会、教務委員会がPDCAを回すにあたり、それぞれの機能・役割の明確化と実質化を進め、現行カリキュラムや教育体制の見直し、学修成果・マイルストーンの改定、72週への増週を含む臨床実習の充実、アウトカム基盤型教育の推進など教育改革を継続した。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、状況に応じた学生行動指針の策定や登校禁止措置に伴うWEB講義と登校指定科目によるハイブリッド教育の導入、TeamsやMoodle等を活用し双方向による個人指導や口頭試問の実施など、感染防止を念頭に置きつつ、「Withコロナ」を念頭においた教育体整備を行った。

また、ピア・サポートやオフィスアワーなど、対面による学修指導は制約され個別指導制度は十分に活用できなかったが、ピア・サポートについてはMoodleを利用し上級生から下級生へのWeb指導を導入し教育支援の充実を図った。

〈成果のみられた計画〉

学部教育：進級判定の結果、留年者については2020年度の50名に対して2021年度は54名と増加したが、退学者については2020年度の5名に対して2021年度は4名に減少した。その結果、収容定員充足率については、2022年4月時点では1.049倍となり、目標である「1.05倍未満」であったが、さらなる留年者減少に向けての対策を課題とする。

カリキュラムとして、①臨床実習における診療科との連絡ツールやEBMのための各種コンテンツにアクセスできるモバイル端末（i-Pod touch）の配付、②第5学年次成績不良者への早期国試対策の強化として、従来から実施している「臓器別補習講義」の後半期に

において、知識の定着を図るため分野別講義ごとに学修到達確認テストを実施、③GPA 活用による教育改善（授業科目間の評価の平準化）の実施、④国際基準である臨床実習 72 週に向けたカリキュラムの改編、⑤学生が修得した知識や能力を明らかにするためディプロマサブリメントの新規作成、などに取り組んだ。

また、学生の学修環境整備として、試験期間等に配慮して自習室の時間外・休日開放等の柔軟な対応を行った。第 5 学年次に対してはコロナ禍により、病棟などの医療現場での実習が制約される場面が多かったことから、教育研究棟 7F に新規にセミナー室を設置し当面、第 5 学年次生の自習用として開放した。

共用試験 CBT・医師国家試験対応：共用試験 CBT では、本学の平均得点が全国の医学部・医科大学の平均得点を上回る結果となった。(2020 年度までの厚生労働省公表データによる)。IRT に基づいて合否判定すると、2020 年度本試験不合格者は 12 名/117 名(10.2%)であり、前年度に比較して改善した(2020 年度：17 名/124 名(13.7%))。2021 年度新卒生の医師国家試験合格率(116 回)は 96.3%であり、関西圏の私立医科大学では 4 位であったが医学部・医科大学の平均合格率(私立：95.2%、全国：95.0%)を上回る結果となった。なお、既卒生の 7 年連続 100%合格は特筆すべき成果といえる。

【次年度に向けた課題・取り組み】

《学部教育》：次年度においても引き続き以下の課題に取り組む。

1. 学修方法指導・支援などの工夫による学生教育の充実
2. 高学年次の成績不良者（在学年限の上限に達する者を含む）への対策の強化
3. 臨床実習の改善およびアウトカム評価の実施
4. 臨床実習 72 週に向けた第 3、第 4 学年次カリキュラムの改編
5. 上記達成のための F D 活動の実施
6. 環境の変化に即応したカリキュラム調整とともに対面・遠隔授業または併用（ハイブリッド）授業の実施

《カリキュラムの充実ならびに共用試験・国家試験対応》：次年度においても引き続き以下の課題に取り組む。

1. カリキュラムの充実

・国際基準である臨床実習 72 週に向けてカリキュラムの改編を行い、第 3、第 4 学年次授業科目の統合を行う。

・本学の教育の信頼性と妥当性を検証するため、各授業科目の評価について、再試験該当状況、科目改善アンケート結果ならびに科目別 GPA の比較等により、授業科目間の成績評価規準の平準化を図るなど、教育改善を推進する。

・学内のモデルコアカリキュラムテキストの電子化ならびに教科書データベースの導入により学生の学修効率の向上を図る。

・臨床実習の評価の見直し（知識、技能、態度の独立評価など）を行ったが、その結果を検証のうえ更に改善を検討する。

・学生の研究マインドを早期に涵養するため、第 1 学年次の希望学生に対して基礎系講座等への研究室見学会を実施する。

2. 共用試験・国家試験対応

・第 4 学年次：CBT 対策の強化

CBT に向けた早期対策ガイダンス

CBT 対策 e-learning の実施

CBT 運営教員の複数化による危機管理ならびに次世代に向けた体制の構築

共用試験不合格による早期留年決定者を対象とした特別カリキュラムの実施

・第 5 学年次：早期国試対策の強化

成績不良者を対象とした補習カリキュラムの実施（前・後期で対象学生の入れ替え有り）

前年度留年生を対象とした特別カリキュラムの実施

第 5 学年次の学力向上を図るため中間試験Ⅱを導入

・第 6 学年次：国試対策の強化

臓器別模擬試験および特別補習（合宿／セミナー形式）の強化・実施

学力別クラス編成によるきめ細かい指導に加え、留年生を対象とした特別カリキュラムの実施

卒業判定の厳格な実施

・その他

第 3、第 4 学年次において、早期国試対策として、医師国家試験に準拠し学生の記憶すべき検査項目の値を学内試験で記載しないことによる学修の促進

《新型コロナ感染症への対応について》

・2021 年度からは対面型教育を中心とする予定であるが、感染対策は継続する。感染流行状況等、環境の変化に即応しカリキュラムや行動指針の変更等については柔軟かつ速やかに対応する。

・感染対策と教育の維持を両立するため、対面・遠隔授業または併用（ハイブリッド）授業の実施体制・環境を整備・確立する。

・教員の教育力および資質の向上を図るための組織的取り組みである FD について夏期ミニワークショップを学外施設（1 泊 2 日）での実施から学内（1 日間）に変更し感染対策に配慮しつつ実施した。

2021 年度兵庫医科大学重点課題 総括

【重点課題名】 大学統合及び組織改編を見据えた臨床実習の改善

【記入者名】 池内浩基、石戸聡

本年度の総括

教育体制を構築するため、医療人育成研修センターが設立され 2019 年度より運営されてきたが、これを発展的に解消し次年度から臨床教育統括センターが設立される。今年度はこの準備段階であり、各部署の役割分担などの計画を立ててきた。

実際の臨床実習を振り返るとコロナ渦ではあるが、院内の臨床実習はおおむね計画通りに運用することができた。6 年生の自由選択実習に関しては一部の外病院で受け入れが困難となり、院内の実習に振り分けた。また、2 名の学生に実習先での不適切な行為があり、院内での追加実習とした。5 年生の学外臨床実習はオミクロン株の感染拡大に伴い、京阪神の病院から受け入れ困難の連絡が相次ぎ、すべて院内の臨床実習に振り分けたが、大学病院も一部病棟閉鎖を行っており、課題の提供やレポート作成など、十分に実習を行うことができない診療科も存在した。

5 年生の臨床実習では 2 名が -12 点以上となり、臨床実習留年となった。今年度より、知識、技術、態度を独立した評価項目とし、実習期間も考慮し、項目毎に -5 点で留年という設定を行ったが、評価方法の変更の周知が不十分で、診療科によりばらつきがあり、中間集計時点で、減点対象者が多く、昨年と同様の総合計の点数も考慮して最終的な判断をすることとした。

ささやま医療センターでの臨床実習は、教員の補充などもあり、前年度よりも向上したと評価できる。

次年度に向けた課題

1. 臨床教育統括センターの運用開始

多職種連携による医療を実践できる医療人を要請するため、臨床教育統括センターが設立され、運用が開始される。新組織の運用時には、各部門の役割分担が不十分で、混乱が生じる可能性もあるが、十分な話し合いを行い、円滑なセンター運用に努めたい。

2. 臨床実習の成績不良者に対する対策

中間時点での減点の多い学生を集めた指導は、本年度、非常に効果的であり、指導後の臨床実習に対する取り組みの改善が見られた。次年度も今年度同様に中間時点での実習成績不良者を集めた警告は続けていきたい。

3. 臨床評価の均一化

今年度特に問題となったのは技術の評価である。これをわかりやすくするため、評価表を改善し、技術の評価はパフォーマンス評価とし、Mini-CEX、DOPS、症例プレゼンテーション、シミュレータを用いた技能評価を行った診療科のみで評価を行う方法に変更予定である。この評価方法は実習前のオリエンテーションでも周知を徹底したい。

4. 認定看護師・特定行為認定看護師課程の教育

働き方改革、多職種連携に非常に重要な分野であり、一般病院からのニーズも高い。すべての受講者が取得できるように教育体制を充実させたい。

2021 年度兵庫医科大学重点課題 総括

【重点課題名】 卒後教育体制・初期臨床研修の改善と卒前教育との連携

【記入者名】 池内浩基、鈴木敬一郎、阪上雅史

本年度の総括

2021 年度は、基本プログラム：42 名、小児科重点プログラム：2 名、産婦人科重点プログラム：2 名、外科専門医取得プログラム：2 名、たすきがけプログラム：2 名、これに加えて今年度より協力型研修病院・大学プログラム：8 名で研修医の募集を行った。協力型を除いてフルマッチとならなかったため、全体での充足率は 86.2%と昨年よりも低下した。だが、これは臨床実習の質も考慮し、充足率にこだわらない人物本位の選考を行った結果でもある。本学出身は 33/50（66%）であり、従来よりも他学出身者の比率がやや高い結果となった。

本年度中の初期臨床研修医の退職者は 1 名、休職者は 3 名となっている。退職者は人間関係によるもの、休職者は育休 1 名、精神的な問題 2 名である。

ここ数年プライマリケアを習得するささやま医療センターでの臨床実習の指導体制の問題が存在したが、今年度は教員の補充等もあり、大きな問題はなく改善されていると評価できる。また、神戸中央市民病院や、西市民病院からの研修医の派遣も開始され、本学の研修医も良い刺激を受けていると思われる。

本年度より協力型プログラムの運用を 8 名で運用開始したことと、充足率が 86.2%であったことから研修医の絶対数が減少した。ここで問題となったのが、救急部の当直体制の維持である。そこで、今年度より 2 年生の研修医の救急部への輪番制当直を開始した。救急部当直の翌日は各診療科とも休みとする取り決めをしたため、研修医からの不満はあまり聞かれなかった。

次年度に向けた課題

1. 臨床教育統括センターの運用開始

2022 年度より組織改編により臨床教育統括センターが運用を開始する。多職種連携教育、卒前・卒後の一貫した教育体制を確立するために設立されたセンターであるため、横の繋がりを重視したスムーズなセンター運用に努めたい。

2. Student Doctor

2023 年度より Student Doctor による医行為が可能となる。次年度はその前年となるが、Student Doctor による医行為の範囲を決め必要がある。また、指導医への周知も必要となるため、その準備を進めたい。

3. 救急部の当直体制の改編

本年度より 2 年目の研修医による救急部の輪番当直を開始したが、次年度は 1 年目の 8 月から救急部の輪番当直を開始することが決まっている。ローテーション中の診療科での当直は届け出制で可能としているが、当直回数が規定通りに守られていることを確認する予定である。

4. 基礎研究医プログラムの運用開始

次年度より定数外で基礎研究医プログラムが運用開始となる。現時点では空き枠となっているが、研究医コースを選択した学生が選択してくれることを期待したい。

2021 年度兵庫医科大学重点課題 総括

【重点課題名】 大学院教育の改善と入学者増などの活性化

【記入者名】 小山 英則

総括

1) 大学院教育の改善

- ・第4学年次の学位取得率は67.6%と目標の55%を達成
- ・留年生の学位取得率は26.3%と目標の45%は未達成
- ・標準年限内での学位取得に向けた研究指導体制の強化
研究進捗状況および研究指導状況報告書提出時期の変更：第2学年、第4学年（学位未取得の者）を、第1学年、第3学年及び第4学年に変更。
留年生については未提出者が多く状況把握が困難であり、第4学年については指導教授が作成するシステムに変更
- ・大学院教員の資格要件等明文化
大学院教員、指導教員、指導教授の身分についてそれぞれ資格要件を定め、役割を明文化
- ・学位審査の評価報告書評価基準の変更
学位申請者の理解度・研究実施能力などの評価を重視し、従来の審査基準の一部を変更
- ・「共通コース」
大学院教育体制整備の一環として、コースワークに「共通コース」を設置
研究不正・研究倫理に関する講義の必修化
- ・学位論文の倫理面の再確認
学位申請論文の倫理申請書の事前確認、研究倫理面での事前チェック体制を確立

2) 入学者増などの活性化

- ・2022年度入学者は、コロナ禍にあり留学生の受験生が皆無であったこと、博士号より専門医志向等により、37名と前年度を下回った

3) 次年度に向けた課題

- ・留年生の学位取得率向上に向けた対策の継続
- ・大学院入学者増加、大学院生の研究活性化に向けた対策の継続
- ・大学院教育体制の検討（退学者を減らすための取組なども含む）
- ・キャリアパス支援体制の構築

2021 年度兵庫医科大学重点課題 総括

【重点課題名】 研究活動の活性化と外部研究資金獲得に向けた対策

【記入者名】 小山 英則

総括

1. 科研費採択数・採択率向上に向けた対策

1) 申請初心者向けセミナー・説明会の実施

- ・ 研究推進 WG による科研費採択セミナー等企画開催（Web 開催）
- ・ 2021 年度 WG メンバーによる講習会（講師：大村谷教授）の Web 配信（8 月）

2) 各講座等に対するヒアリング（学長、学務部）（7～8 月）

- ・ 学長主導で各講座における外部資金の申請・獲得状況、課題の把握

3) 科研申請書作成支援

- ・ 支援活動の早期化：第 1 回 WG 会議（5/13）にて年間計画を策定
- ・ 研究計画レビュー又は作成サポートの実施（WG、URA、研究協力課）
- ・ 研究者への支援通知（6 月）と支援開始。
- ・ 研究者による概要書作成を重視。これを基に申請書の構成・資料作成支援

結果として、昨年には及ばなかったものの、高水準の採択率、配分額が維持された。

2. 研究推進活動

1) 研究助成制度の見直しと実施

- ・ 研究活性化助成（4 名）、若手研究者助成（11 名）の募集
（女性研究者助成はダイバーシティ事業へ集約のため公募せず）
- ・ 若手研究者助成に基礎・臨床連携プロジェクト枠を新設
- ・ 若手研究者海外研究成果発表助成に論文投稿費助成の新設

2) 若手研究者の研究発表・議論の機会提供

- ・ 医学会と連携し、研究助成採択者の発表と議論の機会を提供

3) 科研費間接経費の取り扱いについての議論と改変の提案

- ・ インセンティブ研究費 「特別研究奨励金」の新設

4) 研究助成採択と次年度の科研獲得の関連を検討

- ・ 2020 年度採択課題は 26.7%、2021 年度採択課題は 46.6%と高率に翌年の科研を獲得

次年度に向けた課題

1) 外部資金獲得（科研費採択など）に向けた継続的活動

2) 研究活動活性化対策

- ・ 学内外横断共同研究、基礎・臨床講座間の連携推進のサポート
- ・ 医学会などとの連携により、引き続き若手研究者の研究発表・議論の機会提供
- ・ アウトカム（科研取得、論文成果など）の解析により研究助成制度の有機の見直し

3) 研究成果の公表と還元、市・行政、産業界との連携推進、事業化への橋渡し

2021 年度兵庫医科大学重点課題 総括

【重点課題名】 教員任期制・教員評価などの制度改革とその実行

【記入者名】 学長 野口 光一

1. 教員任期制

2 大学統合を機に、兵庫医科大学および兵庫医療大学の両大学で規定されていた「任期を定めて採用する教員に関する規程」の統合を行った。

規程の統合に際しては統合準備委員会 教員組織部会において検討を重ね、兵庫医科大学・兵庫医療大学間で異なっていた講師以上の任期、特任教員の取り扱い、特命教員の取り扱いなどについて統合案を作成し、最終的に「兵庫医科大学教員の任期に関する規程」として新しく規程を取りまとめた。

また、それに付随して「兵庫医科大学任期制教員の取扱いに関する申し合わせ」を制定し、2022 年 4 月 1 日以前に採用された任期制教員については、2022 年度中に再任審査を経てその取り扱いを決定するよう規定した。

2. 教員評価

主任教授評価については、6 名の主任教授評価を 2020 年度に引き続き同様の手順で行い、評価結果について学長・病院長の面談を経て常務会へ報告を行った。

教員の業績評価については、2 大学統合に際し統合準備委員会 教員組織部会にて教員の採用・昇任・再任の基準について協議し、各学部からの案を基に 4 学部間の調整を行い「兵庫医科大学教員審査に関する規程」および「兵庫医科大学教員審査基準」を制定した。

今後については、教員の諸活動（教育、研究、診療、本学の管理運営、社会貢献等）の活性化を促進することを目的として、教員活動等の実績評価に基づき指導、助言、処遇への反映等を行えるよう、制度を検討する予定である。

2021 年度兵庫医科大学重点課題 総括

【重点課題名】50 周年事業の遂行と卒業生/在学生の帰属意識の向上

【記入者名】池内浩基、長谷川誠紀、野口光一

本年度の総括

1. 50 周年記念式典の成功に向けて

50 周年記念式典はコロナ渦のため、祝賀会は中止とし、記念式典のみを 2022 年 3 月 26 日平成記念会館で行うこととし、その内容も確定した。また、50 周年記念の DVD 作成も数回の作成委員会の議論を経て完成した。

2. 帰属意識の向上を目指した緑樹会・後援会との関係強化

緑樹会役員と本学役員との懇談会は本年度も 2 回開催され、50 周年記念式典や梅田健康医学クリニック等についての話し合いも行われた。また、在学生の帰属意識向上のために、白衣授与式に用いる白衣には本年度も兵庫医科大学と緑樹会のロゴマークが両袖に刺繍されたものを用いた。兵庫医療大学との統合により、大学のロゴマークも変更となるため、Hyogo College of Medicine を刺繍した白衣は、今年度が最終となるため、白衣も貴重なものとなる。後援会との関係は今まで通り良好な関係を継続できた。

3. 本学卒業生の幹部教員への登用

講師 A 以上の登用数は現時点で 77/236(32.6%)であり、昨年とほぼ同様な頻度であった。主任教授への登用はなかったが、炎症性腸疾患外科で卒業生の臨床教授への登用があった。

4. クラブ OB 会の再構築による卒業生の帰属意識の向上

クラブ OB 会の再構築は前年からの課題であるが、コロナ渦のため、進んでいない。また、クラブ活動自体がほぼ 2 年間休止の状態であり、技術の伝承が必要なクラブでは、存続が危ぶまれているクラブもある。

次年度に向けた課題

1. 緑樹会・後援会との関係強化

次年度より入学試験において緑樹会枠が導入されることになり、緑樹会理事会で野口学長が説明を行うことになっている。また、2016 年から後援会会長を務められた清水会長が今年度で勇退される予定であるため、次期後援会会長とも良好な関係を保ちつつ、特に在学生の学習環境向上を図りたい。

2. クラブ活動存続に向けた支援

前述したように、2 年間の活動休止により、学生自身のクラブ活動に関する認識も変わりつつある。クラブの存続は帰属意識の向上には必須のものであり、学生部委員会を中心に、学生の意見を聴取しながら、大学として支援していく。

3. 次の 100 周年に向けての一步

西宮キャンパスは、次年度は、次の 100 周年に向かって一步を歩みだす年となる。新病院の建設も始まっており、大学、緑樹会、後援会が一丸となり大学発展のために協力したい。

第 2 章

2021 年度 各委員会 の 目標達成状況

(1) 年度目標の設定該当委員会等一覧

(2) 2021 年度 委員会計画達成状況調査票

委員会の年度目標の設定該当委員会等（2021年度）

No	会議・委員会等	委員長等	領域	事務
1	兵庫医科大学 学修成果作成委員会	成瀬 均	教育	学務部教学課
2	兵庫医科大学 カリキュラム評価委員会	鈴木 敬一郎	教育	学務部教学課
3	兵庫医科大学 カリキュラム委員会	石戸 聡	教育	学務部教学課
4	兵庫医科大学教務委員会	石戸 聡	教育	学務部教学課
5	兵庫医科大学学生部委員会	長谷川 誠紀	学生支援	学務部教学課
6	兵庫医科大学入試企画等検討委員会	八木 秀司	入試	学務部入試課
7	兵庫医科大学研究医コース運営委員会	鈴木 敬一郎	教育	学務部教学課
8	兵庫医科大学情報メディア委員会	三輪 洋人	教育	学務部図書・学術情報課
9	兵庫医科大学図書館委員会	島 正之	教育	学務部図書・学術情報課
10	兵庫医科大学大学院委員会	小山 英則	大学院	学務部学務課
11	学校法人兵庫医科大学医療人育成研修センター運営委員会	鈴木 敬一郎	教育・臨床	学務部医療人育成課
12	兵庫医科大学病院前期研修管理委員会	池内 浩基	教育	病院事務部管理課
13	兵庫医科大学病院後期研修管理委員会	池内 浩基	教育	病院事務部管理課
14	兵庫医科大学ささやま医療センター教育・研修委員会	片山 覚	教育・臨床	篠山キャンパス事務部
15	兵庫医科大学倫理審査委員会	廣瀬 宗孝	倫理	学務部研究協力課
16	先端医学研究所運営委員会	吉村 紳一	研究	学務部研究協力課
17	共同利用研究施設運営委員会	中込 隆之	研究	学務部研究技術課
18	兵庫医科大学動物実験委員会	中込 隆之	倫理・研究	学務部研究技術課

2021年度 委員会計画達成状況調査票

【委員会名】 学修成果作成委員会

【責任者】 委員長：成瀬 均

事務担当：学務部

1.年間目標

- (1) 使命ならびに学修成果の教員・学生への浸透度を高める。
- (2) 学修成果の達成状況を検討し、改善を行う。

2.年間計画

計画名		達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
1	使命と学修成果の教員・学生への浸透（ミッションカード携行を通して）	教員に対しては、委員長からwebアンケートフォームにてミッションカード携行有無の調査を行い、70%が携行しているという結果であった。学生に対しては、各科目が講義内で実施する学生の携行調査の結果を集約し、65%が携行しているという結果であった。 上記の結果から教員・学生のいずれも目標不達成となった。	ミッションカード携行率 (教員・学生共に80%以上目標) ・教員：70.0% ・学生：65.0%	左記のとおり、ミッションカード携行率の目標は不達成となった。 携行率は教員（昨年53.8%）、学生（昨年38.0%）ともに昨年から漸増しており、各種周知施策による効果が見られる。 今後の対応としては、以下の施策を実施し、引き続き使命と学修成果の浸透に取り組むこととしたい。 【教員】教育力向上セミナー等の場で引き続き周知を図る 【学生】ミッションカードの電子アプリ化を通して周知を図る
2	学修成果の改善	「カリキュラム評価委員会からの提言」「大学統合を見据えた改善」を踏まえた学修成果の改善について協議したが、大幅な変更が必要となり、単年度で実施することは困難との結論に至り、来年度に学修成果の改定案をまとめ、再来年度から運用を開始する計画を立案した。	・ 教員・学生が理解しやすいようにするための学修成果の簡素化（カリキュラム評価委員会からの提言への対応） ⇒来年度に改定案をまとめ、再来年度から運用を開始する計画を立案した。 ・ 大学統合を見据えた学修成果の改善有無 ⇒統合後の大学医学部の使命・教育目標等に基づき、来年度に一から学修成果を構築する計画を立案した。	左記のとおり、今年度中の学修成果の改善は見送りとなったが、再来年度運用開始に向けての計画を立案したため、計画を基に学修成果の改善に向けて引き続き取り組んでいくこととしたい。

2021年度 委員会計画達成状況調査票

【委員会名】 カリキュラム評価委員会

【責任者】 委員長：鈴木 敬一郎

事務担当：学務部

1.年間目標

- (1) IR情報を中心とした各種データに基づき本学教育カリキュラムの検証・評価を行う。
- (2) (1) の結果を踏まえ、改善に向けてその結果を関連委員会等に報告する。

2.年間計画

計画名		達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
1	2021年度カリキュラム実施結果の点検・評価	学生、一般の方、地域医療関係者など主要な教育の関係者ならびに広い範囲の教育の関係者を交えて点検・評価を行った。以前から課題の国際性、英語力、臨床現場での自信など評価結果を関連する委員会にフィードバックした。	評価結果を各委員会にフィードバックしカリキュラム改善が行われた。6月にJACMEによる医学教育認証評価を受審し、好成績で認定を受けた。一方、委員会の役割の明確化についての指摘を受けた。	委員会の役割を明確にするため、本委員会はプログラム評価委員会に名称変更し、教育課程全般を着実に評価する。
2	コロナウイルスの影響により変更したカリキュラムの点検・評価	今年度は講義は一時期オンライン配信となったが、基礎医学系実習、臨床実習はほぼ予定通り対面で実施できた。	今年度はコロナウイルスの影響を最小限に抑えられた。	引きつづき感染対策を徹底し、通常カリキュラムでの教育を予定している。
3	カリキュラムの検証項目の洗い出し	上記(1)のように洗い出しを行った。加えて教員活動評価にあるコメントも参考にした。	上記(1)に加え態度教育、自主性・能動性を課題として考えている。	必要事項を関連委員会に報告する。
4	現行のカリキュラムの改善案の提言	上記内容を提言した。	提言を行い、目標を達成できた。	今後、提言の実施状況を検証する。

2021年度 委員会計画達成状況調査票

【委員会名】 カリキュラム委員会

【責任者】 委員長：石戸 聡

事務担当：学務部

1.年間目標

- (1) ディプロマ・ポリシーを踏まえたカリキュラム・ポリシーの改善について意見を集約し、反映する。
- (2) カリキュラム評価委員会の意見を踏まえ、次年度カリキュラムの改善案を検討する。

2.年間計画

計画名		達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
1	カリキュラム・ポリシーの点検・評価・改善	委員長から資料を用いて、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの位置づけを説明があり、委員にカリキュラム・ポリシーの点検意見を求めたが、特に修正意見などが出なかったため今年度については変更なしという結論となった。	<u>100%達成</u> カリキュラムポリシーの点検・評価は9月21日に終えたことで、2022年度カリキュラムの作成始動（10月末）に間に合わせる事ができた。	2022年度も同様に点検・評価を行っていく。
2	国際基準に合致したカリキュラムの作成	臨床実習の週数確保に向けて、2022年度4年の臨床実習開始時期を4週間前倒し、2023年度卒業生と比較し、2024年度卒業生は計2週増の70週の臨床実習を行うカリキュラムを改編案として教務委員会へ提言した。	<u>90%達成</u> 毎年着実に臨床実習の週数を増やしてはいるが、72週の目標数値と比較し、2週不足している	臨床実習の週数は、高学年次を増やすと、国家試験対策などへの影響があることから、低学年の実習で週数確保可能か再検討する必要がある。

2021年度 委員会計画達成状況調査票

【委員会名】 教務委員会

【責任者】 委員長：石戸 聡

事務担当：学務部

1.年間目標

(1) 学部教育の充実 (2) 医師国家試験対策の強化 (3) With & Post コロナ時代の教育体制の構築
--

2.年間計画

計画名	達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
1 カリキュラムの充実	① 卒業時調査の意見「試験の数が多い」を踏まえ、カリキュラム委員会からの提言があり、教務委員会で検討した結果、3年次の10科目を5科目に、4年次の2科目を1科目に統合。また、該当科目のコマ数を2021年度と比較し10%削減することで、教育改善を推進した。 ② 臨床実習の週数確保に向けて、2022年度4年の臨床実習開始時期を4週間前倒し、2024年度卒業生は70週の臨床実習を行うカリキュラムに改編した。	<u>90%達成</u> ① 卒業時調査を発端に科目改善につながっており、計6科目の統合に成功していることから、当初の目標は達成していると思われる。 ② 72週の目標数値と比較し、2週不足している。	臨床実習の週数は、高学年次を増やすと、国試対策などへの影響があることから、低学年の実習で週数確保可能か再検討する。
2 医師国家試験の対策	目標数値を達成した。 学力別クラス編成による教育に加え、留年生を対象とした特別カリキュラムの実施、臓器別模試・特別補習等による学力強化を行い、最低限の留年生ながらも高い合格率を維持した。	<u>100%達成</u> 国試（新卒）受験者108名中、合格者104名 合格率：96.3%（前年度：93.1%） （目標：新卒合格率90%以上）	引き続き、学力別クラス編成による教育、留年者用の特別カリキュラムによる成績不良者の学力の底上げを行う。また、早期からの国試対策の強化として、第5学年次の学力向上を図る中間試験Ⅱを導入する。

計画名		達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
3	成績不良者の対策	5・6年次の学力別クラス編成カリキュラム・指導、4～6年次留年生を対象とした特別カリキュラム等により、学力の底上げを図った。また、GPAの活用による成績不良者の早期発見と面談指導を行った。	<u>70%達成</u> ・ 留年率：7.65%（54名）（前年度：7.16%（50名）） ・ 退学率：0.56%（4名）（前年度：0.57%（5名）） ・ 定員充足率：1.049倍（前年度：1.049倍） このように、退学者を減少させることが出来たが、留年者を減少させることが出来ていない。また、昨年の目標である定員充足率1.05倍以内はかろうじて達成できている。	引き続き、学力別クラス編成による教育指導、留年者を対象とした特別カリキュラム等の実施、低学力者の面談指導により、留年率の軽減に取り組み、現在の定員充足率の減少を目指す。
4	新型コロナウイルス（COVID-19）対応	教育の質の維持を念頭において新型コロナウイルス感染対策として、対面授業と隔授業を併用したhybrid型のカリキュラムを実施した。 視聴覚教育センター協力のもと、授業のMoodle配信を遅延なく行い、授業形態の変更や感染等に伴う自宅待機となった学生の学修の遅れがでないよう、環境変化に即応できる体制を構築した。	<u>100%達成</u> 新型コロナウイルスの流行状況、国・県の指針に基づいた上で、各授業の特性に合わせ、対面授業・遠隔授業または併用（hybrid）授業を実施した。また、再試験該当者数や科目別GPAをもとに成績について前年度比較を行ったところ、第2～4学年次については変化はなかったが、第1学年については他の学年の前年度比に比べ、成績が悪い傾向にあった。	引き続き、新型コロナウイルス感染症の流行状況、社会情勢、環境の変化等に柔軟に対応しながら、教育の質の維持を念頭においてカリキュラムや行動指針を決定する。

2021年度 委員会計画達成状況調査票

【委員会名】 学生部委員会

【責任者】 委員長： 長谷川 誠紀

事務担当： 学務部

1.年間目標

- (1) 学生支援体制の充実を図る。
- (2) 課外活動再開への支援を行う。
- (3) 2大学統合に係る学生部関連の諸問題に対処・解決する。
- (4) 緑樹会との連携を図る。

2.年間計画

計画名		達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
1	学生生活の全般的な支援の充実	・ 学年担任、アドバイザー教員、医学教育センター、学生相談室、学生保健室が連携して、学生や保護者からの相談対応を行った。 ・ アドバイザー担当教員による面談については、コロナウイルス感染拡大の影響を受けたものの、時期を変更し2度実施した。 ・ 学生相談室は、オンラインでの相談対応を行った。 ・ 感染拡大防止の観点から、顔認証による出欠管理システムの使用停止を継続した。	・ コロナ禍の影響により、心身に変調を来した学生が多数見受けられたが、各担当者が連携して支援し、心身の変調を理由とした学生の離脱を最小限に留めることができた。	・ 引き続き、支援を必要とする学生へ確実に情報が行き渡るよう、周知を徹底する。 ・ 引き続き、学生の個々の状況に応じた最適な支援を行う。 ・ コロナ禍における欠席調査のあり方については、継続的に検討することが必要である。
2	経済的な支援の充実	・ 新型コロナウイルス感染拡大による影響で経済的に困窮している学生が利用可能な支援制度について、速やかに学生への情報提供を行った。また、追加情報が確認でき次第随時更新し、各種支援制度について最新の情報を提供した。 ・ 学生や保護者からの相談内容に応じて、最適と思われる奨学金制度の紹介を行った。	<各種奨学金制度採用状況> ・ 兵庫県推薦入学制度：5名入学 ・ 日本学生支援機構奨学金：9名採用 ・ 兵庫医科大学奨学金：1名採用 ・ 特定診療科医師養成奨学制度：1名採用 ・ その他（各1名ずつ推薦）：長崎県医学修学資金貸与制度、岐阜県選奨生奨学金、国際医学教育財団奨学金、滋賀県医学生修学資金貸与制度 <新型コロナウイルス感染拡大による特例措置等支援制度の利用状況> ・ 学びの継続のための『学生支援緊急給付金』：採用4名	

計画名		達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
3	危機管理体制の充実	・これまで利用してきた安否確認・連絡網システムのサービス終了に伴い新システムに移行したが、遅滞なく全学生の最新の連絡先をシステムへ登録させることができた。 ・登校禁止期間中においても重要な連絡事項を漏れなく、確実に周知することができた。 ・学生の実地避難訓練は、コロナ禍の影響により開催延期となったが、避難経路・消火器位置について周知し、防災意識の啓発を行った。	・安否確認・連絡網システムにおけるメールアドレスの登録率は、100%を達成した。	・感染拡大の状況等を鑑みた上で、総務課と調整し、実地避難訓練の実施を検討する。
4	課外活動再開への支援	・課外活動再開に係るロードマップやガイドラインを策定し、再開・停止に係るフローを明確にするとともに、再開後の運用面でも学生の活動記録の提出を義務付けることで管理を徹底した。 ・感染対策の一環として消毒液や非接触型体温計等を全課外活動団体に配布した。 ・コロナ禍の影響により、課外活動については完全に停止せざるを得ない期間はあったが、ロードマップやガイドラインに基づき段階的な課外活動の再開を実現できた。 ・鳴尾浜総合グラウンド野球場の整地、昇降式ネットの改修工事を行った。 ・平成記念会館におけるトレーニング機器の更新に伴い、費用の補助を行った。		・今後も感染拡大状況等を鑑みた上で、段階的な課外活動の再開もしくは制限の強化等、継続的に対応していく必要がある。
5	2大学統合に係る学生部関連課題の解決	・2大学統合に係る学生部関連規定について、2大学統合教務部会、教務委員会、神戸キャンパス学生部と連携して、適宜改正を行った。 ・学生の自治活動について、双方の学生会による意見交換の場を設け、課題の解決に向けて情報共有を行った。		・今後も、教務委員会、神戸キャンパス学生部等関係各所と連携し、課題解決に向けた取り組みを継続していく必要がある。 ・学生の自治活動について、今後も継続して意見交換を行い課題解決に向けて取り組んでいく必要がある。

計画名		達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
6	緑樹会との連携	・ 緑樹会との緊密な連携のもと、在学生や課外活動団体に関する情報の提供を行い、会報誌の発行等を通じOB・OG向けに情報発信を行うことができた。 ・ コロナ禍の課外活動停止措置に伴い、課外活動等を通じたOB・OGとの交流機会が減少した。		・ コロナ禍のOB・OGとの交流のあり方について、継続的に検討していく必要がある。

2021年度 委員会計画達成状況調査票

【委員会名】 入試企画等検討委員会

【責任者】 委員長：八木 秀司

事務担当：学務部

1.年間目標

- (1) 入試に関するデータの分析を行い、検証する
- (2) 優秀な学生確保のための明確な選抜基準の作成
- (3) 学生募集ならびに選抜方法の企画・立案を行う

2.年間計画

計画名		達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
1	入学者選抜方法の妥当性の検証	2022年度入試判定基準の作成および調査書評定の評価基準の作成までに入学者選抜方法の妥当性に関して追跡調査を終え、検討を行った。	予定どおりのスケジュールにて分析、検証を行い、2022年度の入学者選抜方法の検討および2023年度入学者選考要領作成に活かすことができた。	一般選抜Bについてアドミッション・ポリシーに沿った学生を確保できているかどうか、これまで蓄積されたデータから、より詳細に調査・分析を進める。
2	2022年度入試判定基準の作成	入学者選考要領に基づき2021年10月の委員会で入試判定基準を策定し、承認された。	2022年度学校推薦型選抜開始前までに判定基準を作成し、その基準に基づく合否判定を実施することができた。	一次試験科目と二次試験科目の受験者数の違いなどを考慮した上で判定基準の再検討が必要。
3	2023年度入学者選考要領の作成	2023年度入学者選考要領案を作成し、委員会、教授会を経て、2022年2月の常務会にて審議を行い、承認された。	新規に導入する総合型選抜も含め、2021年度内に入学者選考要領の作成を完了した。また、2022年度上期中に学生募集要項を作成する予定である。	
4	小論文の適正な作問と評価方法の確立	小論文における適切な作問と評価を継続して実施していくため、小論文ワーキンググループを設置し、現行体制の課題や評価基準の策定について検討を行った。	ワーキンググループにて検討した作問方針や評価基準に基づき、2022年度入試問題の作成および採点、評価を適切に実施することができた。	

2021年度 委員会計画達成状況調査票

【委員会名】 研究医コース委員会

【責任者】 委員長：鈴木 敬一郎 事務担当：学務部

1.年間目標

(1) 研究医コースの必要定員数の学生確保に向けた方策の実施
(2) 研究医コースに係る自己点検評価の実施と改善に向けた検討
(3) 卒業した研究医コース学生の進路追跡調査ならびに在学生への卒業後のキャリアプランの提供

2.年間計画

計画名		達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
1	2022年度研究医コースの必要定員数の学生確保に向けた方策の実施	2021年度3年生は6名と十分な学生数が確保でした。募集時期よりも早い段階から研究室を見学する機会（1年研究室見学会、2年プレ基礎系講座配属）を設けたところ、一定数の申込みがあった（詳細右記）が、2022年度研究医コースへの申込者は2、3年共に0名という結果となり、目標数値を達成しなかった。	1年生に対し、研究室見学会を7月に開催し、19名の申込みがあった。また、2年生に対し、プレ基礎系講座配属を8月に実施し、55名の申込みがあった。しかしながら、2022年度募集への申込みは0名であったことから、目標の達成に至らなかった。	2022年度の研究医コースへの申込みについて夏季休暇前まで募集を延長することになった。また応募が0名となってしまった要因について調査するため、現2年生に対し、2022年3月に研究医コースへの関心やイメージに関するアンケート調査を行った。この結果をもとにこれまで実施してきたプレ基礎系講座配属やガイダンスの時期・内容について見直しを行う。加えて配属先に臨床講座を加えることを含め抜本的な改革を検討する。
2	研究医コースに係る自己点検評価の実施と改善に向けた検討	研究医コースを修了した卒業生、現2年生に対し、アンケートを実施し、自己点検を行った。これら結果を踏まえ、改善に向けた検討を行った。	研究医コースを修了した卒業生13名に対し、進路調査と共に研究医コースに関する振り返りアンケートを2022年1月に実施。在学生（2年生）に対し、2022年3月に研究医コースへの関心やイメージに関するアンケート調査を実施。これら結果をもとに研究医コース委員会にて改善案の検討を行った。	研究医コースの活動状況が在学生に見えづらいという意見があったことから、教員によるガイダンスに加え、在学生と研究医コース学生との交流の場を設ける。また、プレ基礎系講座配属のあり方についても見直しを検討する。

計画名		達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
3	卒業した研究医コース学生の進路追跡調査ならびに在學生への卒業後のキャリアプランの提供	研究医コースを修了した卒業生に対し行った進路調査の結果によると、回答者7名全員が後期臨床研修等の段階で、そのうちの2名が研修をしながら、基礎系大学院へ進学していた。 在學生（2・3年生）に対してはアンケート結果をもとに研究医コースに加入していたことで卒業後に役立ったことなどの情報を提供し、コースのPRに使用した。	研究医コースを修了した卒業生13名に対し、2022年1月に進路調査を実施し、7名からの回答があった（回答率：53.8%）。 当該卒業生はまだ後期臨床研修期間のため、在學生へのキャリアプランの提供が難しかったことから、卒業生からみて研究医コースに加入してよかった点について情報を在學生へ提供した。	奨学金貸与者以外は強制的に進路情報を提供してもらうことができないことから、追跡方法について検討を行う。 今回、募集申込み結果ならびに2年生に行ったアンケート結果から、卒業生との交流の場を設けるだけでなく研究医コースに所属中の學生がどのような活動をしているのかがわかるよう、プロモーション方法を新たに企画検討する。

2021年度 委員会計画達成状況調査票

【委員会名】 情報メディア委員会

【責任者】 委員長：三輪 洋人

事務担当：学務部

1.年間目標

(1) 全講義収録及び即時配信可能な講義収録配信システムの構築
(2) 学修支援環境の拡充

2.年間計画

計画名		達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
1	講義収録配信システムの構築	2020年度の講義収録システム構築(1期)に引き続き、私立学校情報機器整備費(遠隔授業活用推進事業)補助金を活用し講義配信システム構築(2期)を行い、配信部分の更新とシステム移行を行った。視聴画質の向上や係員の作業軽減も図られている。 2021度は4~5月、9~10月、1~2月に一部学年や科目が登校禁止措置となりオンデマンド講義による対応を行った。	2021年10月に講義配信システム構築(27,170,000円補助額9,365,000円)を完了し、11月より新システムによる講義の配信を開始している。 2021年度の動画コンテンツへのアクセス数は179,707回(昨年度比159%)であった。(1月末時点)	新システムへの移行はMoodleとの連携機能の開発の遅れにより計画の9月に間に合わず、11月からの運用となった。 今後も社会情勢の変化に影響を受けにくい遠隔講義に対応できる環境構築をすすめる。
2	視聴覚機器更新計画の策定	2021年10月に情報メディア委員会を開催し、計画的に視聴覚機器の更新を行えるよう講義室・実習室視聴覚機器更新計画案を策定した。 また、講義用コンテンツ作成のための撮影機材・貸出機材について整備を行った。	利用頻度・使用状況と耐用年数を勘案して優先度をつけ、2023年から2032年にかけて順次機器更新を行うよう計画した。	講義室・実習室について計画的に機器の更新を行い、学修環境を整備する。
3	講義支援環境の拡充	2021年度も引き続きのコロナ対応もあいまってMoodle利用需要が増加(63コース)し、資料提示、動画配信、課題提出、アンケート(IR、配属先希望調査など)の実施、データベース(臨床実習の記録等)、掲示板、フィードバック(ピア評価等)などを行った。 また、全学を対象とした体調報告など直接の講義支援以外にも活用されたり、対面講義が急遽行えなくなった際はTBL講義も一部Moodleにて実施された。	今年度新規で医学部全学年で217のコース(科目)をMoodle上で開講し、講義ビデオ配信1703本、資料公開1106本、小テスト319本、アンケート220本、課題84本、データベース70本、掲示板67本、フィードバック36本の対応を行った。 ラーニングスクエア学生用プリンタの出力枚数は84,157枚、貸出ノートPC利用数は473回であった。(1月末時点)	西宮キャンパスでの講義支援としてMoodleを活用する環境の整備と運用を行う。 教職員からの要望や講義形態の変化に速やかに対応できるようMoodle(LMS)に関連する情報収集、マニュアル・環境整備を行う。

2021年度 図書館委員会 目標・計画

【委員会名】図書館委員会

【責任者】委員長：島 正之

事務担当：学務部

1.年間目標

(1) 外国雑誌の見直し実施
(2) 計画的な図書及び図書資料等の購入
(3) 図書館蔵書管理

2.年間計画

計画名		達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
1	外国雑誌アンケート調査実施と見直し	2021年度は5年に一度の定期的見直しの年のため、各講座・研究室当71部署に外国雑誌見直しアンケートを実施し、2022年より5年間の購読雑誌を決定した。	各講座・研究室71部署にアンケート調査を行った結果、全部署から回答があった。 利用統計、ImpactFactorを参考に選定した図書館コア88誌、各部署希望1位の教室コア53誌、過去3年間の利用統計が100件以上の利用統計多数59誌、合計200誌を購読することとなった。	次回は2026年に調査実施予定。
2	図書、電子ジャーナル、データベース等の購入計画の策定と実施	図書購入については利用者の要望等を含め購入計画を策定し購入した。 電子ジャーナル・データベースについては、大学統合を機に契約タイトル統合を行い、見積金額を比較・検討できた。また、電子ジャーナル・データベースの購入費については神戸キャンパスと教員案分することとし、予算内に収めることができた。	図書購入については4回に分けて購入計画を策定し予定どおりのスケジュールで実施した。また、電子ジャーナルについても予定通りのスケジュールで検討を行い予算執行に至った。	今後も、学修、研究に寄与するため、計画的に図書、電子資料を購入する。
3	図書館蔵書点検の実施	利用者への影響を最小限に抑えるために、例年3月下旬に予定しており、今年度は3月22日～25日に実施予定。	図書館西側の書架及び倉庫保管分を含む32,750冊を対象に実施する。	2022年度以降も引き続き蔵書点検を定期的に行う。

2021年度 委員会計画達成状況調査票

【委員会名】 大学院委員会

【責任者】 委員長：小山 英則

事務担当：学務部

1.年間目標

- (1) 学位取得率（第4学年および留年生）の向上について
- (2) 大学院入学者増加に向けた取り組み
- (3) 学位論文の研究倫理遵守の徹底に向けた取り組み

2.年間計画

計画名		達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
1	①学位取得率の向上	2021年度の学位取得率は67.6%となり、当初の目標の55%を大幅に超えることとなった。	達成 67.6%	
	②留年生の学位取得率の向上	留年生38名(休学者1名を除く)の内、学位取得者(予定含む)は10名、学位取得率は26.3%と、目標値の45%を下回る結果となった。	未達成	「研究進捗状況報告書(研究指導状況報告書)」について、本人が作成し指導教授が確認(サイン)して提出していたが、指導教授が作成することに変更し、研究指導体制の強化を図る。
2	大学院入学者増加に向けた取り組み	大学院入学者については、コロナ禍にあり留学生の受験生が皆無であったこと等により、2022年度入学者は37名と前年度を下回った。	未達成	社会学連携・研究推進センター、兵庫医科大学医学会などと連携し、研究発表会・講演会などの機会を増やし、若手、特に臨床系医師の研究参画への興味を醸成する。研究医コースの卒後キャリアの解析などから、学部生への働きかけの可能性を探る。また魅力ある大学院を目指すべく、キャリアパス支援体制を構築する。
3	学位論文の研究倫理遵守の徹底に向けた取り組み（倫理審査委員会との連携）	今年度からの取組として、大学院教育体制を整備し、コースワークに「共通コース」を設け、研究不正・研究倫理に関する講義を必修とした。また学位申請論文の倫理申請書のチェック体制を確立した。	達成	

2021年度 委員会計画達成状況調査票

【委員会名】 医療人育成研修センター運営委員会

【責任者】 委員長： 鈴木 敬一郎 事務担当： 医療人育成課

1.年間目標

- (1) 2022年度大学統合に向けて新たな多職種連携教育のあり方等を再構築し運営準備を進める。
- (2) 医学部卒業時の学修成果と卒後臨床研修の到達目標との関連づけ等を検証し見直すことで卒前・卒後の一貫した教育体制構築に向けて改善を図る。
- (3) 認定看護師教育課程における特定行為研修を附加した特定認定看護師養成課程への改編と既存の特定行為研修課程との連携等をすすめる受講生の安定的確保と当該課程の効率的運営の改善を図る。

2.年間計画

計画名		達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
1	2022年度大学統合に向けて新たな多職種連携教育のあり方等を再構築し運営準備を進める。	IPW（多職種連携）を実践できる医療人の育成を目的に、「多職種連携総合臨床実習（※仮称）」と「選択専門コース（※仮称）」を導入することを決定し、HPに掲載した。	2022年度は希望者の少人数で実施するが、担当教員の調整は順調に進んでおり、当初の目標をほぼ達成している。	特に遅延はない。 従来は座学とグループ討議、模擬カンファレンスなどを中心に行っていた「チーム医療演習」をさらに発展させ、実際の臨床現場（※場所は兵庫医科大学ささやま医療センターなどを検討中）で多職種連携を体験してもらうプログラムを導入。 今後、医療大学学生の参加を促すインセンティブを検討したい。
2	医学部卒業時の学修成果と卒後臨床研修の到達目標との関連づけ等を検証し見直すことで卒前・卒後の一貫した教育体制構築に向けて改善を図る。	医学部卒業時の学修成果と卒後臨床研修の到達目標との関連づけについては、JACME受審時に検討を行い対照表を作成した。	関連付けは行ったが、一貫した体制への改善は不十分である。	今後は、実施主体である臨床教育統括センターが主体となって改善を図る。
3	認定看護師教育課程における特定行為研修を附加した特定認定看護師養成課程への改編と既存の特定行為研修課程との連携等をすすめる受講生の安定的確保と当該課程の効率的運営の改善を図る。	コロナ禍であるが、2022年度は認定・特定とも新規受講者は各々12名を確保できた。 また、修了者は、認定：10名中9名、特定：9名中全員が認定を受けた。	定員（認定・特定とも20名）は満たしていないが、コロナ禍であることを鑑みると好結果であろう。 また、学外の施設で実習を行うことにより、効率的な運用が確立した。	認定看護師教育課程における未修了者1名については、次年度は実習のみを課す。 今後は、さらなる定員確保のため教育体制の充実と広報を強化したい。

2021年度 委員会計画達成状況調査票

【委員会名】 前期研修管理委員会

【責任者】 委員長：池内 浩基

事務担当： 病院事務部管理課

1.年間目標

- (1) 感染対策の基本的な知識を身につける。
- (2) 兵庫医科大学の職員の一人であることを自覚する。
- (3) 多くの新しい知識や技術を身につけることができるよう向上心を持たせる。
- (4) チーム医療を理解する。

2.年間計画

計画名		達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
1	感染対策に関する研修会への参加	1年目研修医については、オリエンテーション期間中に感染実習を行っている。 全研修医対象の感染対策セミナー・手指衛生については、必須となっているため100%の達成率である。	達成率は100%である。	次年度も100%の達成を目標とする。
2	接遇やハラスメントに関する研修会への参加	1年目研修医については、オリエンテーション期間中に接遇に係る講演会を受講している。 全研修医対象のハラスメント研修（e-learning）は視聴期限が過ぎたため、数名は未視聴となっている。	約90%の達成率である。	次年度は100%となるよう、研修医に周知徹底させる。
3	診療科でのカンファレンスや地域の講演会への積極的な参加	各診療科でのカンファレンスは問題なく参加できている。ただし、講演会はコロナ感染症のために中止となった講演会も多かった。	約50%の達成率である。	コロナの終息状況にもよるが、講演会の参加もwebも含めて積極的に参加するように指導したい。対面による講演会等も増加すれば達成率は改善すると思われる。
4	他職種とのカンファレンスへの参加	多人数でのカンファレンスを中止としていたためほとんど達成できていない。	達成率は0%である。	今年度は感染症のために密とな他職種とのカンファレンスは中止としていた。感染症の終息状況を見ながら再開したい。

2021年度 委員会計画達成状況調査票

【委員会名】 後期研修管理委員会

【責任者】 委員長：池内 浩基

事務担当： 病院事務部管理課

1.年間目標

(1) 安全管理能力の向上
(2) 専門領域の知識の蓄積、技術の向上
(3) 問題解決能力の向上
(4) 地域連携の重要性の理解

2.年間計画

計画名		達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
1	安全管理や感染対策の研修会への参加	安全管理・感染対策については、後期研修医は必須となっているため100%の達成率である。	達成率は100%	引き続き100%の達成率を目指したい。
2	学会での発表や業者のラボでの新しい器械の操作を身につける	学会の発表は、現地開催とweb開催のハイブリッド開催となったものが多かったため、昨年度に比べて参加は出来ているが、出張命令書を発行していないため、実数は把握できていない。 ただし、業者のラボでの新しい器械の操作を身につけることについては、コロナ渦のためできなかった。	達成率は約70%程度	コロナ感染症の終息状況にもよるが、今後も後期研修医全員が学会の発表でできるように指導していきたい。
3	院内での研修会への積極的な参加	web開催が多かったため、ある程度参加できた。	達成率は約80%程度	できるだけ多くの後期研修医が参加するように引き続き指導していく。
4	地域連携の会や、地域の講演会への参加	地域医療連携の会はコロナ感染症のため本年度はすべてが中止となった。 地域の講演会については、web参加も可能となったものもあるため、多少は達成できている。	達成率は約10%程度	コロナ感染症の終息状況にもよるが、再開され次第、積極的に参加させたい。

2021年度 委員会計画達成状況調査票

【委員会名】 ささやま医療センター教育・研修委員会

【責任者】 委員長：片山 寛

事務担当：篠山キャンパス事務部

1.年間目標

- (1) 全職員（全従業員）を対象とした、医療安全、感染対策に係る講習の計画と実行
- (2) 魅力ある学生実習と卒後研修の実施

2.年間計画

計画名		達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
1	医療安全講習の全職員受講	● 2回の講習会を開催 ・ 9月：「法医学からみた医療安全」 ・ 11月：「ささやま医療センター医療機器の安全管理」 ● 感染対策の観点から「ナーシングスキル」を活用した動画閲覧での参加とし、非常勤職員、中途入職者へも積極的に案内を行う。また、各部署のSMを通して閲覧を促し全体の85.1%の受講率となった。（非常勤、ローテーション職員、休業職員は対象外、中途入職者対象）委託業者にも講習会、補講のアナウンスを行った。	全職員対象100% →85.1%	講演会の開催回数を2回としており全てに参加しなければ受講率達成にならない。そのため、未受講者宛に通知を行い受講率の向上に繋げたが、全職員受講には至らなかった。引き続き動画閲覧にて実施を行い、各部署を通じて未受講者宛に通知を行い受講率向上を目標とする
2	感染対策講習の全職員受講	● 1回の講習会、クリーンハンドキャンペーンを開催 ・ 10月「新型コロナウイルス感染症について」 ・ 12月流水手洗いの振り返り（クリーンハンドキャンペーン）	全職員対象 →受講率100%	全職員の受講確認ができた。今後も、職員へ受講のアナウンスを行い、継続して受講率100%を維持できるよう講習会内容を検討する。
3	医薬品、医療機器安全講習会の開催（実施数増）	医薬品安全講習会：1回 医療機器安全講習会：1回 ME勉強会：16回	各講習会研修会年10回以上開催 →合計18回	新型コロナウイルス感染拡大の影響からME勉強会については中止になる等、昨年度に比べ開催回数が減少したが、医薬品安全講習会（web）と医療機器安全講習会を開催出来た。今後も各講習会等を年10回以上開催することを目指す。

計画名		達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
4	学生教育（実習）の充実	● 実習環境の整備・充実 ・ 病棟回診 ・ 当直実習の形成的評価 ・ 特定健診、3分間ラーニングを用いた患者への指導 ・ 老健回診 ・ 訪問診療 ・ 看護師との協働実習 ・ 発熱外来対応、ワクチン接種の補助 ・ 日直、宿直実習の参加	● 学生教育（実習）の受入（医学部） ・ 2週間学生（5年）：118名 ・ 早期学生（1年）：13名 ・ 地域医療枠学生（5年、6年）：4名 ・ 地域学生（2年）：5名 ・ 協働実習学生（2年生）：24名 （医療大） ・ 看護師：108名 ・ 理学療法士：101名※見学者含む ・ 作業療法士：9名	以下については継続して実施す ・ 宿舍清潔維持のため清掃徹底 ・ 特定検診への参加 ・ 経験省察研修録（ポートフォリオ）評価導入 ・ 訪問診療 ・ 入院症例検討会 ・ 総合診療勉強会開催 ・ リハビリ ディスカッション実習 ・ 退院調整・認知症ケア/病棟実習 ・ 日直、宿直実習の参加 ・ 発熱外来対応、ワクチン接種の補助
5	卒後教育（初期・後期）研修の充実	● 臨床研修医の受入 - 兵庫医科大学病院 ……37名 - 神戸市立医療センター中央市民病院 ……16名 - 神戸市立医療センター西市民病院 ……5名 - 姫路赤十字病院 ……2名 ● 研修内容の充実 - 外来研修・救急研修における指導医体制の強化 - 併設の老人保健施設への診療業務	初期の地域医療研修の受入数：62名／年 →60名の受入	指導医体制を整えることができた。引き続き地域医療を担う医師の育成に取り組んでいく。

2021年度 委員会計画達成状況調査票

【委員会名】 倫理審査委員会

【責任者】 委員長： 廣瀬 宗孝

事務担当： 学務部

1.年間目標

- (1) 倫理指針に即した適切な委員会の運営及び審査の質の維持
- (2) 研究者等に対する教育・研修の機会提供による研究倫理知識修得と意識醸成

2.年間計画

計画名		達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
1	倫理審査委員会の定期的開催	達成	毎月1回、年12回開催した。	
2	倫理審査委員及び事務に従事する者の教育・研修受講の徹底	達成	2022年3月1日（火）に実施した。	
3	研究者等に対する研究倫理に関する講習会の開催	達成	2021年6月25日（金）に実施し、web配信を行った。	

2021年度 委員会計画達成状況調査票

【委員会名】 先端医学研究所運営委員会

【責任者】 委員長： 吉村 紳一 事務担当： 学務部

1.年間目標

(1) 先端医学セミナーの開催

2.年間計画

計画名		達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
1	先端医学セミナーの開催	2021年11月10日開催済み	100%	

2021年度 委員会計画達成状況調査票

【委員会名】 共同利用研究施設運営委員会

【責任者】 委員長：中込 隆之

事務担当： 学務部

1.年間目標

- (1) 研究：共同で利用する設備機器を適正に管理し、大学の研究活動を支援する。
- (2) 施設：設備機器の計画的な整備及び研究環境の改善を推進する。
- (3) 教育：講習会、取扱説明を通じて実験についての必要な知識と技術を提供し、利用者の研究活動を支援する。
- (4) 大学統合：2022年度の大学統合に向けた共同利用研究施設の再編について検討を行う。

2.年間計画

計画名		達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
1	次年度予算案の立案 (経常費、設備機器費)	2022年度共同利用研究施設経常費が審議され、承認された。また、設備機器費については希望調査を行い、緊急性および重要性を鑑みて順位付を行った機器について、審議され承認された。なお、文科省補助金に申請予定の機器の機種選定について意見があり、再検討することになった。	10月に開催された運営委員会において、次年度予算案（経常費、設備機器費）が承認され、運営委員会から3点の設備機器を要望することとなった。また、文科省補助金に申請予定の機器の機種選定について再検討を行い、原案どおりの希望順位となり、要望することになった。	
2	設備機器更新計画のブラッシュアップ	2021年度に策定された設備機器更新計画に機器を追加し、メーカーのサポート等の情報を含め、ユーザーミーティング、合同代表者会での意見を集約した。そして、運営委員会において設備機器更新計画（2022～2024年度）が審議され、承認された。	10月に開催された運営委員会で2022～2024年度における設備機器更新計画が承認され、この計画に基づき申請準備を進めることとなった。	
3	利用者への技術支援 および設備機器の利用促進	研究技術課スタッフもしくは共同利用研究施設専任教員（以下、専任教員）が講師となり、実験手技や機器操作を中心とした実験技術講習会（パラフィン組織標本作製、電子顕微鏡用超薄切片作製）が開催された。	電子顕微鏡用超薄切片作製を12月に、パラフィン組織標本作製を1月に開催し、計6名の受講があった。	
4	研究技術講習会の実施	大学院のカリキュラム見直しに伴い、本講習会が大学院生の必修から外れることになり、テーマを見直し、医学部で行われる実験に必要な細胞培養技術、遺伝子発現解析等のテーマを策定した。6月に開催された持ち回り委員会で研究技術講習会の開催案が承認され、8月に実施された。	4回の研究技術講習会が開催され、計13名の受講があった。そして、開催後の受講生のアンケート結果が10月の運営委員会で報告された。	

計画名		達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
5	共同利用研究施設の再編についての検討	大学統合に伴う共同利用研究施設の組織について、教員組織部会研究ワーキンググループでの審議を経て、決定された。 本委員会において、組織再編に伴う運用の変更として、利用者対応の申し込み制の導入、DNAシーケンサーの依頼分析の廃止、セルソーターセットアップの運用方法変更について審議され、承認された。また、統合後の研究技術講習会開催について、本講習会の責任者であるエリア代表者の負担軽減等を考慮して、実施しないことになったが、代替案として専任教員及び共同研担当者による講習会を実施することになった。	共同利用研究施設の組織再編に伴う運用変更が承認された。また、研究技術講習会開催については、開催形態を変更し、共同研専任の教員による講習会（年1回）及び共同研担当者による講習会（年2回）を実施することが承認された。	

2021年度 委員会計画達成状況調査票

【委員会名】 動物実験委員会

【責任者】 委員長：中込 隆之

事務担当： 学務部

1.年間目標

(1) 本学で実施する全ての動物実験について、事前に、その実験計画が本学規程及び関係法令に適合しているかを審査し、その結果を学長に報告する。
(2) 学長の委任により、動物実験実施者及び実験動物の飼養者に対して、法令等、本学の定める規程等、動物実験の方法及び実験動物の取扱に関する事項、実験動物の飼養保管に関する事項、安全確保、安全管理に関する事項、施設等の利用に関する事項、人獣共通感染症に関する事項、その他、適切な動物実験等の実施に関する事項の知識を習得するための教育訓練を実施する。
(3) 動物実験等に関する諸事項について、体制等の整備状況及び当該年度の実施状況等を自己点検・評価し、その結果を情報公開する。
(4) その他、動物実験に関する必要事項等を実施する。

2.年間計画

計画名		達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
1	動物実験計画の審査	計画通り実施	申請された実験計画（新規申請約30件、変更申請約60件他）を審査。	
2	動物実験に関する教育訓練	計画通り実施	研究者受講管理システムを利用したWeb講習を随時実施し、計31名が受講。飼養保管施設の飼養者については、教育状況報告を確認した。また、飼養保管施設の実験動物管理者については、公益社団法人日本実験動物学会又は公私立大学実験動物施設協議会主催の「実験動物管理者の教育訓練」を受講した。	
3	自己点検・評価（2020年度）および情報公開	計画通り実施	2020年度「動物実験に関する自己点検・評価報告書」を作成し、委員会の活動状況、飼養匹数、改正規程とあわせて情報公開した。上記報告書等を踏まえ、公益社団法人日本実験動物学会の外部検証プログラムに基づく外部検証を受審し、高い評価を受けた。飼養保管施設については、現地調査の結果を学長及び委員会に報告した。	
4	動物実験規程の見直し及び改正	計画通り実施	動物愛護管理法等の改正や社会情勢の変化により動物実験規程を見直した結果、2021年9月7日に一部改正した。	
5	実験動物慰霊祭	計画通り実施	多くの学生・研究者等が参加し、厳かに挙行された。	

第 3 章

医学教育分野別評価受審とその評価結果及び新たな医学部の使命の策定について

(1) 医学教育分野別評価受審とその評価結果について

(2) 新たな医学部の使命の策定について

1. 医学教育分野別評価受審とその評価結果について

本学医学部は、医学教育分野別評価基準 日本版 Ver.2.32 にもとづく、日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し（実地調査：2021 年 5 月 31 日から 6 月 4 日）、評価基準に適合していることが認定されました。



ACCREDITED
2022.2-2029.1

（認定期間：2022 年 2 月 1 日～2029 年 1 月 31 日）

評価報告書では、本学の実施する医学教育が、「1.使命と学修成果」「2.教育プログラム」「3.学生の評価」「4.学生」「5.教員」「6.教育資源」「7.教育プログラム評価」「8.統括および管理運営」「9.継続的改良」の 9 領域ごとに「基本的水準」および「質的向上のための水準」に分けて設定された基準（評価項目）を満たすものであったかの評価が、詳細に述べられています。

評価報告書の中で、本学が特に高く評価された項目と評価された項目を以下に挙げます。特筆すべき事項としては、本学の学修支援に関する取り組みについて、多くの評価を得ています。これら評価された事項については、更なる発展を目指し、また、改善のための助言をいただいた項目については、医学部をあげて改善に取り組み、今後ともより質の高い医学教育の実践を目指していきます。

【高く評価された取り組み】

- ① ディプロマ・ポリシーの 4 領域別に 12 要素の能力を定め、各細目ごとに学修成果を S（卒後臨床研修修了後）、A（卒業時）、B（臨床実習開始前）、C（基礎力養成期間修了時）の 4 段階のマイルストーンで明示している。
- ② 兵庫医療大学の 3 学部（薬学部、看護学部、リハビリテーション学部）と合同で多職種連携教育に取り組み、1 年次から生命倫理や疼痛などをテーマに TBL 形式での 4 学部合同グループワークや発表を行っている。
- ③ アドバイザー教員、学年担任、医学教育センターなど、学生の支援に必要な資源を配分し、関係部署とも連携して個別対応を行っている。
- ④ 女子学生の妊娠/出産、発達障がいなど個別の事情により欠席した学生への支援、学生も利用できる病児保育室の設置など、個々の学生の事情に合わせた支援のシステムがある。

【評価された取り組み】

- ① 生涯にわたり自己研鑽を続ける意識と能力を養う教育プログラムを、6 年間を通じて段階的に実施している。

- ② 高学年まで医学研究を十分に行うことができる「研究医コース」を設けている。
- ③ 6年間の教育期間において体系的な「痛み」教育を行い、「痛み集学的診療」ができる医療者を養成するための教育システムを構築している。
- ④ 生化学実習において、個別で実技試験を行っている。
- ⑤ 学生の在学中の成果物、自己評価、教員評価、振り返りの記録などを収集した「建学の精神ポートフォリオ」を運用している。
- ⑥ 学生の教育進度に基づいて、医学教育センターが個別の学修支援を行っている。
- ⑦ 「教員の採用、活動、能力開発の指針」、「兵庫医科大学が求める人材像」、「人材育成方針」を明確に定め、教員の募集、採用、育成を行っている。
- ⑧ 兵庫医科大学教育研究環境整備方針を策定し、学修環境を改善している。
- ⑨ 大講義室の講義を録画し、学内の端末から閲覧できるシステムを有している。
- ⑩ 関西学院大学などと履修単位の互換制度を有し、教職員、学生の交流を行っている。
- ⑪ 関西4大学相互乗り入れ臨床実習を実施している。
- ⑫ 「関西5大学 研究医養成コースコンソーシアム合宿」を毎年実施し、学生同士の交流や他大学教員との交流を通じた自己研鑽を支援している。
- ⑬ 教育プログラムを遂行するために、事務組織および専門組織を充実させている。
- ⑭ 兵庫県や関係する保健医療部門との緊密な協働のもと、兵庫医科大学兵庫県推薦入学制度の卒業生が高い兵庫県内定着率を維持している。

2. 新たな医学部の使命の策定について

2022 年度に兵庫医療大学と統合し、医学・薬学・看護学・リハビリテーション学の 4 学部からなる医系総合大学となるにあたり、更なる発展と社会的責任を果たすため、医学部の使命を新たに策定するため、本学の内部質保証会議の小委員会として、第三者の視点を加えた「兵庫医科大学医学部使命策定委員会」を設置した。

使命の策定にあたり、以下の 3 点を指針とし、委員会にて協議を重ね、新たな使命が決定した。

- ① これまで本学が掲げてきた使命（目的、教育目標）を内包し、4 学部を有する医系総合大学の医学部としての責任を明確にすること
- ② 学生・教職員・患者・地域住民など、全てのステークホルダーに伝わるものとする
- ③ 医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 33 に定める、医学部として国際的に求められている「使命」の基準を満たすこと

新たに策定された使命は以下の通りである。

【使命】

建学の精神に基づき、以下の素養を涵養し、プロフェッショナルな医師・医学者を社会に送り出すことを使命とする

社会の福祉への奉仕

- ・ 医学を通じた社会の保健・衛生および福祉の向上への貢献
- ・ 兵庫県の多様な地域性を理解し、特性に応じた適切な医療の提供
- ・ 国際保健への関心と、国際的視野を持った活動

人間への深い愛

- ・ 人の痛みや苦しみ、喜びに共感できる豊かな感性
- ・ 医療に携わる全ての人々と信頼関係を築ける豊かなコミュニケーション能力
- ・ 多様性を尊重し、生命の尊厳と医療倫理の原則に基づき判断・行動する力

人間への幅の広い科学的理解

- ・ 様々な医療の専門領域に進むための知識と技能を身に付け、良質で安全な医療を実践する能力
- ・ 総合的・科学的に課題を捉え、最新の情報・科学技術を活用し、医療・医学研究を最適化する能力
- ・ 生涯にわたって自律的に学び続け、後輩を指導するとともに、自らも共に学ぶ姿勢

データブック

社会の福祉への奉仕

人間への深い愛

人間への幅の広い科学的理解

使命

建学の精神に基づき以下の目的と教育目標を成し遂げることを使命とする。

目的

兵庫医科大学医学部は「建学の精神」を具現化する為に次の目的を掲げる。

- 1) 豊かな人間性と高い倫理観を培い、幅広く様々な人々と共感でき、かつ信頼され得る人格を育成する。
- 2) 人間を自然科学的のみならず人文社会科学的にも幅広く理解し、医科学に関わる基本的な知識と技能を身に付けると共に、その過程で遭遇する様々な問題点を的確に把握し解決できる応用力を育成する。
- 3) 修得した態度、知識、技能を多様な医学領域および種々の専門領域において実践することにより、幅広い視野に立って社会の福祉へ奉仕できる有能な医師を社会に送り出すことを究極の目的とする。

教育目標

「建学の精神」および「目的」に則って、学生が卒業時まで以下
の項目について十分な能力を備えることを教育目標とする。

- 1) 幅の広い教養と国際保健に貢献する素養を身に付ける。
- 2) 様々な人々との触れ合いを体験することによって、多様な考え方を理解し、また共感できる豊かなコミュニケーション能力を育む。
- 3) 様々なハンディキャップを抱える人々を支援扶助する心と態度を醸成し、また支援扶助の社会的仕組みについて理解する。
- 4) 人体の構造、機能及び異常や疾病とそれらの原因、病態、診断、治療に関する基本的な知識を身に付ける。
- 5) 様々な疾病に対する適切で安全な治療法を理解し、かつ患者の権利と生命の尊厳を十分に理解した上で基本的な医療技術を修得する。
- 6) 人体や疾病に影響を与える社会的な要因や背景について理解を深める。
- 7) 様々な問題点を科学的かつ統合的に捉え、真理を探究する研究能力と的確に判断し解決できる応用力を育む。
- 8) 強い使命感と優れた協調精神を有し、社会の福祉に奉仕できる良医となるべき素養と生涯にわたって能動的に学び続ける姿勢を身に付ける。

建学の精神

社会の福祉への奉仕 人間への深い愛 人間への幅の広い科学的理解

目指す姿

21世紀に即した医学・医療の持続的な展開と、
それらを担う高質の医療人の育成を使命とする医療総合大学

基本コンセプト

法人部会

健全な財政基盤を確立し、時代の変化に対応できる人材の育成

医科大学部会

次世代の医学・医療を担う医療人の育成と質の高い研究の実践

医療大学部会

医系総合大学としての教学基盤の確立

大学病院部会

社会の要請に応える特定機能病院として、より安全で質の高い次世代医療の提供

篠山キャンパス部会

地域包括ケアの「篠山モデル」を構築し、地域から信頼される医療・福祉の提供

戦略・施策

法人部会

- ①財務計画の着実な実行
 - ①中期財務計画の策定
 - ②予算編成方法の改善と予算執行管理の徹底
- ②兵庫医科大学開学50周年記念事業の実施
 - ③募金事業実施体制の構築と募金事業の実施
 - ④50周年記念事業の計画と実施
- ③新病院建設のための態勢整備
 - ⑤新病院整備計画の策定と実行
 - ⑥新病院建設特定資産の積立
- ④緊急時も含めた法人機能の維持
 - ⑦各キャンパスの危機管理体制の点検整備
- ⑤効率的かつ効果的なICTの活用
 - ⑧ICT基本計画の策定
 - ⑨情報システム導入効果の可視化
- ⑥意欲的に働くことのできる組織・職場づくり
 - ⑩医師の職場復帰のための再教育プログラム策定
 - ⑪新たな事務体制の確立と人材育成
 - ⑫教職員のモチベーション向上のための人事考課制度の処遇への反映
 - ⑬長時間労働の是正並びに有給休暇取得率の向上
- ⑦「対応型」から「戦略型」広報体制への転換
 - ⑭各部門の広報体制及び広報業務の見直しによる法人広報体制の確立
- ⑧医系総合大学として、質の高い医療人を育成する体制の構築
 - ⑮改組に伴う医療人育成研修センターの強化
 - ⑯医科大学と医療大学の統合による新たな医系総合大学の創出
- ⑨新たな拠点の開設による新規ニーズの発掘
 - ⑰早期発見・早期治療を実現する幅の広い医療提供

医科大学部会

- ①質の高い医師を輩出するための教育の充実
 - ①問題解決能力の向上を目指すした教育体制の充実
 - ②国際的に活躍できる人材育成
 - ③入試制度改革
 - ④学生生活支援体制の充実
 - ⑤大学院教育の改革と充実
- ②質の高い研究成果の創出
 - ⑥競争的資金獲得に向けた組織的取り組みの強化
 - ⑦基礎研究とトランスレーショナルリサーチの活性化
 - ⑧臨床研究の質的向上
- ③帰属意識の向上
 - ⑨兵庫医科大学卒業生と在学生の帰属意識の向上

医療大学部会

- ①次代を担う中核的医療人育成の教育研究の強化
 - ①兵庫医科大学との統合に向けた協働
 - ②次代を拓くヘルスサイエンスの深化と創出
- ②大学の「地域性」の定着と実績づくり
 - ③地域社会との双方向の教学実施による社学連携
 - ④医療人のキャリアアップを目指す生涯教育支援
- ③受験生の安定的確保と学生の学習支援の充実
 - ⑤学生一人ひとりに向き合う支援体制の充実
 - ⑥入試改革と受験生確保
- ④大学自己改革の推進
 - ⑦自己点検・評価による教育の質保証と情報の公開

大学病院部会

- ①がん診療機能の充実に向けた体制強化
 - ①多様なニーズに対応するがん専門医療人の育成
 - ②がん診療における地域連携の推進
- ②高度急性期医療の推進
 - ③新たな救急診療体制の構築
 - ④手術センター・アイセンターの効率的運用
- ③診療・臨床研究における地域との協働
 - ⑤関連病院との連携強化
 - ⑥医療支援センターの活性化
 - ⑦医師主導治験の主体的支援
- ④特色のある医療の実施
 - ⑧次世代医療の導入
- ⑤新病院建設に向けた財政基盤の確立
 - ⑨新病院建設に向けた目標収支差額の確保

篠山キャンパス部会

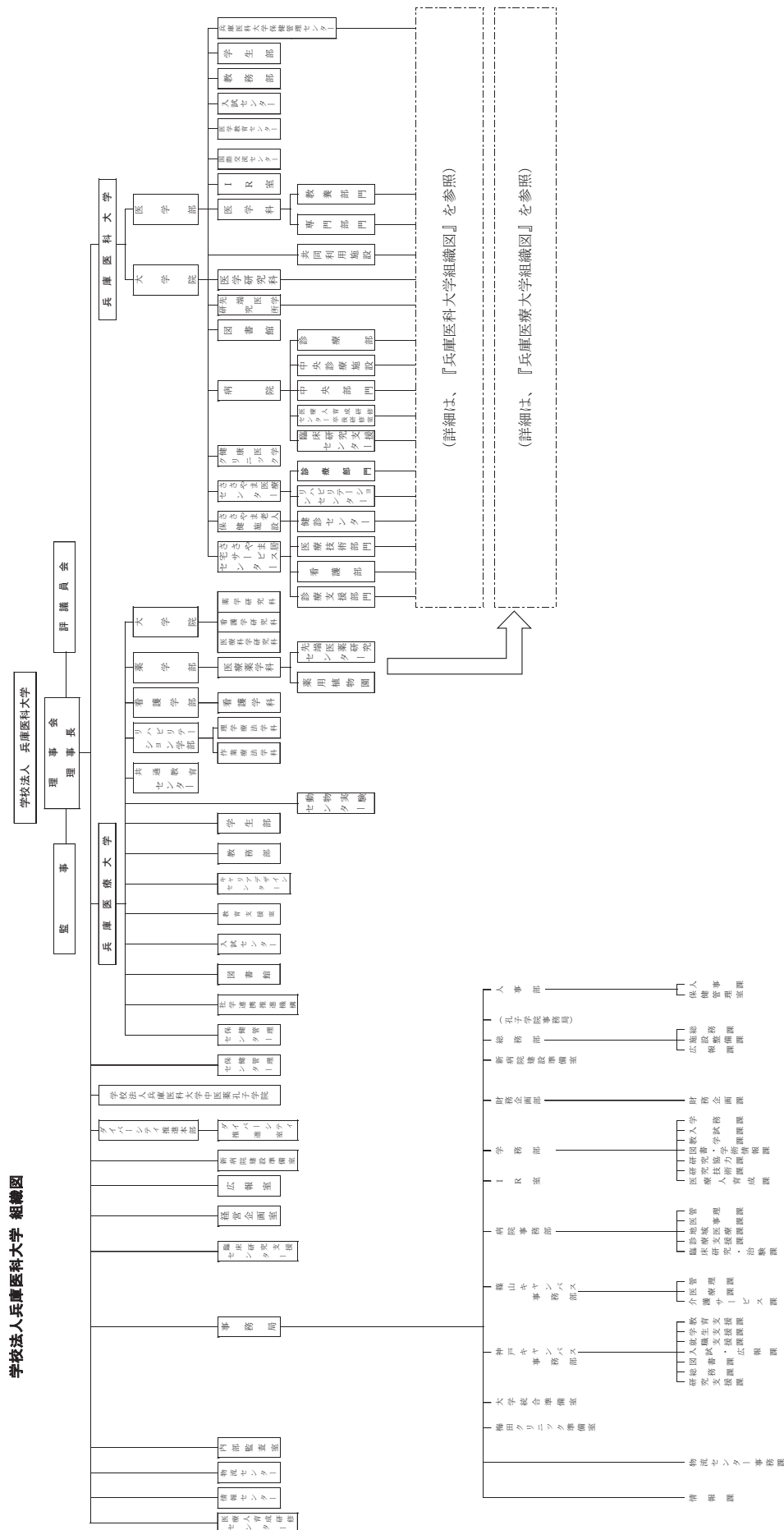
- ①地域包括ケアシステムの構築に向けた体制整備
 - ①旧病院跡地利用計画の策定と実行
 - ②在宅療養支援病院の充実
 - ③外来診療体制及び健診業務の充実
 - ④地域包括ケアの深化・推進
- ②総合診療・地域医療を支える医療人の育成
 - ⑤卒前・卒後教育における地域医療研修の充実
 - ⑥西宮本院と連携した戦略的人材交流の実施
 - ⑦労働生産性の向上・多職種連携による効率化
- ③地域に貢献し信頼されるブランドの確立
 - ⑧地域と連携し、市民に開かれたキャンパスづくり

兵庫医科大学 沿革

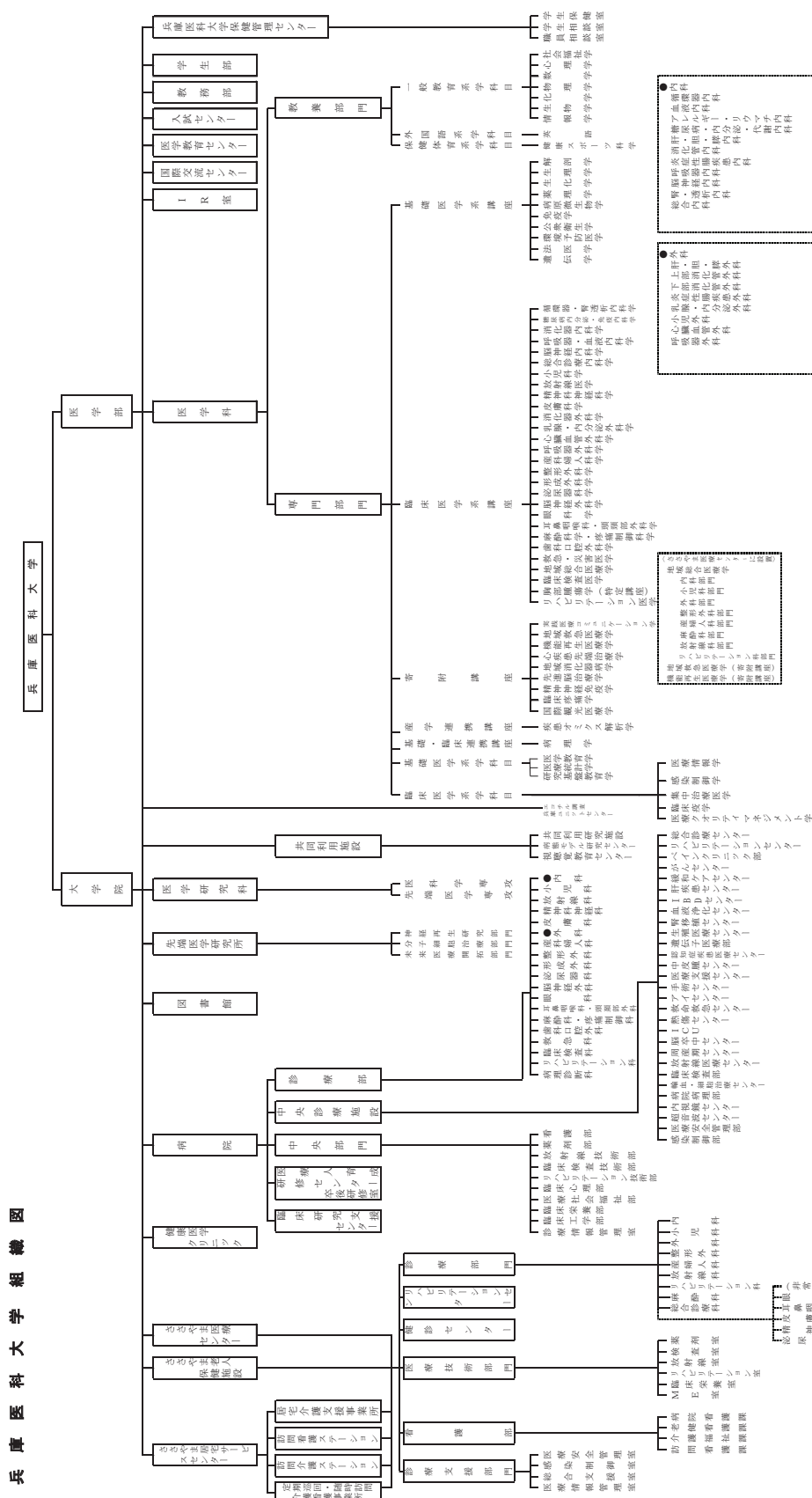
1971年	11月	学校法人兵庫医科大学寄附行為認可及び兵庫医科大学設置認可
1972年	4月	兵庫医科大学開学(入学定員 医学部 100名)
	4月	兵庫医科大学病院開設
1973年	8月	病院棟(1号館)完成
1974年	4月	中央動物実験棟(7号館)完成
	8月	校舎、講堂(3号館)完成
1978年	3月	兵庫医科大学大学院医学研究科設置認可
1980年	2月	病院・研究棟(8号館)完成
	8月	兵庫医科大学 ドイツ連邦共和国ザールランド大学との学術交流に関する協定を締結
1981年	11月	鳴尾浜総合グラウンド完成
1984年	4月	研究棟(9号館)完成
1994年	3月	兵庫医科大学病院 特定機能病院に指定
1995年	1月	阪神・淡路大震災 被災
1996年	10月	兵庫医科大学病院 災害拠点病院に指定
	11月	兵庫医科大学病院 エイズ拠点病院に指定
1997年	4月	先端医学研究所開設
	10月	兵庫医科大学篠山病院開設
	11月	立体駐車場完成
1999年	6月	兵庫医科大学リハビリテーションセンター開設
	9月	兵庫医科大学ささやま老人保健施設開設
	11月	兵庫医科大学 中華人民共和国汕頭大学医学院との学術交流に関する協定を締結
2000年	3月	病院棟(10号館)完成(開学25周年記念事業)
2001年	4月	兵庫医科大学附属看護専門学校開校
2004年	3月	兵庫医科大学 大学基準協会の相互評価により、大学基準適合の認定
2005年	3月	平成記念会館完成(開学30周年記念事業)
	12月	兵庫医科大学病院 日本医療機能評価機構より病院機能評価(Ver.4)の認定
2006年	3月	兵庫医科大学 中華人民共和国天津医科大学との学術交流に関する協定締結
	11月	学校法人兵庫医科大学寄附行為変更認可及び兵庫医療大学設置認可
	11月	兵庫医科大学病院 PET センター開設
2007年	4月	兵庫医療大学開学 (入学定員 薬学部 150名、看護学部 100名、リハビリテーション学部 80名)
	7月	兵庫医科大学 関西学院大学との学術交流に関する包括協定締結
	7月	兵庫医科大学病院 兵庫県エイズ治療中核拠点病院に指定
	10月	兵庫医科大学 クロアチア共和国 Rijeka 大学医学部との学術交流に関する協定締結
2008年	2月	兵庫医科大学病院 地域がん診療連携拠点病院に指定
	4月	兵庫医科大学病院 肝疾患診療連携拠点病院に指定
	7月	学校法人兵庫医科大学 篠山市と兵庫医科大学篠山病院の運営と整備に関する基本協定を締結
2009年	3月	兵庫医科大学附属看護専門学校閉校
	3月	兵庫医療大学 体育館 完成
	4月	兵庫医科大学 緊急医師確保対策として2名、「骨太の方針2008」により8名増員となり、入学定員は110名となる
	4月	兵庫医科大学病院 兵庫県認知症疾患医療センターに指定
2010年	6月	兵庫医科大学ささやま医療センター開院(兵庫医科大学篠山病院を改称)
	12月	兵庫医療大学大学院看護学研究科及び医療科学研究科設置認可
	12月	兵庫医科大学病院 日本医療機能評価機構より病院機能評価(Ver.6)の認定
2011年	3月	兵庫医科大学 大学基準協会の認証評価により、大学基準適合の認定
2012年	11月	兵庫医療大学大学院薬学研究科設置認可
	11月	学校法人兵庫医科大学中医薬孔子学院設立
	11月	兵庫医科大学 アメリカ合衆国カリフォルニア大学サンディエゴ校と学術交流に関する基本合意書を締結

	12月	兵庫医科大学病院 急性医療総合センター完成(開学40周年記念事業)
2013年	3月	兵庫医療大学 大学基準協会の認証評価により、大学基準適合の認定
2013年	5月	兵庫医科大学 ブルガリア共和国ソフィア医科大学との学術交流に関する協定を締結
	12月	兵庫医科大学ささやま医療センター 日本医療機能評価機構より病院機能評価(3rdG:Ver.1.0一般病院1)の認定
2014年	3月	兵庫医療大学 オーストラリア連邦アデレード大学と学術交流に関する基本合意書を締結
	4月	兵庫医科大学 研究医養成枠として2名増員し、入学定員は112名となる
2015年	4月	兵庫医科大学 健康医学クリニック開設
	4月	兵庫医療大学 社学連携推進機構設置
2016年	1月	兵庫医科大学ささやま居宅サービスセンター開設
	2月	兵庫医科大学病院 日本医療機能評価機構より病院機能評価(3rdG:Ver.1.1)の認定
	3月	学校法人兵庫医科大学 篠山市との土地交換契約を締結
	12月	ドイツ連邦共和国ビュルツブルグ大学医学部と学術交流協定を締結
2017年	11月	教育研究棟 竣工
2018年	2月	兵庫医科大学病院 兵庫県アレルギー疾患医療拠点病院に指定
	3月	兵庫医科大学 大学基準協会の認証評価により、大学基準適合の認定
	6月	学校法人兵庫医科大学 篠山市との病院運営継続の基本協定を締結
2019年	2月	兵庫医科大学ささやま医療センター 日本医療機能評価機構より病院機能評価(3rdG:Ver.2.0一般病院1)及びリハビリテーション病院(副機能)の認定
2019年	4月	兵庫医科大学病院 兵庫県難病診療連携拠点病院に指定
2019年	8月	兵庫医科大学ささやま居宅サービスセンター 厚生労働省より「機能強化型訪問看護ステーション(機能強化型訪問看護管理療養費3)」の認定
2019年	9月	兵庫医科大学病院 がんゲノム医療拠点病院に指定
2021年	3月	新立体駐車場・デッキ棟完成

【2021年7月1日現在】



【2021年4月1日現在】



1. 医学部 教育関連

(1) 医学部学生数（2021 年 5 月 1 日現在）

－社会人学生数：0 人

学年次	定員	在学者数		
		総数	男	女
1	112	126(112)	65(59)	61(53)
2	112	119	63	56
3	112	103	55	48
4	112	117	64	53
5	112	124	76	48
6	112	116	76	40
計	672	705	399	306

※（ ）内は 2021 年度入学者

(2) 収容定員充足率（2021 年 5 月 1 日現在）

	定員	学生数	収容定員充足率
医学部	672	705	104.9%

(3) 入学者推移

	年度	入学者数	入学定員
医学部	2021	112	112
	2020	112	112
	2019	112	112

(4) 教員数（2021 年 5 月 1 日現在）

① 年齢別教員数

年齢	人数
29歳以下	0
30～39歳	136
40～49歳	170
50～59歳	102
60～69歳	34
70歳以上	0
総数	442

② 職階別教員数

	医学部	ささやま医療センター	先端医学研究所	計
学長	1	—	—	1
教授	74	0	1	75
准教授	30	1	2	33
講師	95	4	1	100
助教	222	10	1	233
計	422	15	5	442

③ 専任教員と非常勤教員の比率

専任教員	442 (63.1%)
非常勤教員	258 (36.9%)
総数	700

(5) 教員一人当たり学生数（2021 年 5 月 1 日現在）

	教員数	学生数	教員一人当たり学生数
医学部	442	705	1.60人

(6) 医師国家試験

第 116 回医師国家試験

試 験 日 : 2022 年 2 月 5 日 (土) ・ 6 日 (日)

合格発表日 : 2022 年 3 月 16 日 (水)

① 本学の状況

区分		新卒			既卒			計		
本年度		受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
		108	104	96.3%	7	7	100%	115	111	96.5%
参考	2020 年度	101	94	93.1%	3	3	100%	104	97	93.3%
	2019 年度	111	108	97.3%	7	7	100%	118	115	97.5%

② 全国の状況（合格率）

新卒・既卒別		新 卒	既 卒	計
私立・全国別				
	私 立 平 均	95.2%	61.3%	92.4%
	全 国 平 均	95.0%	54.0%	91.7%

2. 医学部 入試関連

(1) 2022 年度 医学部入学試験

2022 年度入試では、一般選抜は従来型の一般選抜 A4 科目型と、一般選抜 B 高大接続型を実施し、学校推薦型選抜は一般公募制、地域指定制及び特別選抜を実施した。また、文部科学省のガイドラインに基づき新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を実施し、一般選抜 A4 科目型については、新型コロナウイルス感染症に罹患した等の理由で受験ができなかった入学志願者の受験機会を確保するため追試験を実施した。

1) 学校推薦型選抜

- ① 募集人員 : 一般公募制 約 12 名 (特別選抜 2 名以内を含む)
地域指定制 5 名以内
- ② 選 抜 方 法 : 基礎適性検査、小論文、面接、調査書等を多面的・総合的に判定
- ③ 試 験 日 : 2021 年 11 月 21 日 (日)
- ④ 合格発表日 : 2021 年 12 月 1 日 (水)
- ⑤ 出願者数等 :

区分	一般公募	地域指定	特別選抜
出願者	53 名	34 名	2 名
合格者	12 名	5 名	2 名

2) 一般選抜 A4 科目型

- ① 募集人員 : 約 85 名
- ② 選 抜 方 法 : 学科試験、小論文、面接、調査書等を多面的・総合的に判定
- ③ 試 験 日 : 第 1 次試験 2022 年 1 月 26 日 (水)
第 2 次試験 2022 年 2 月 5 日 (土) 又は 2 月 6 日 (日) の選択制
- ④ 合格発表日 : 第 1 次試験 2022 年 2 月 3 日 (木)
第 2 次試験 2022 年 2 月 11 日 (金)
- ⑤ 出願者数等 :

区 分	人 数
出 願 者	1478 名
第 1 次試験合格者	438 名
第 2 次試験合格者 (正規)	146 名

3) 一般選抜 B 高大接続型

- ① 募集人員 : 約 10 名
- ② 選 抜 方 法 : 学科試験、小論文、個人面接、課題型面接、調査書、英語資格
検定試験等を多面的・総合的に判定
- ③ 試 験 日 : 第 1 次試験 2022 年 1 月 26 日 (水)
第 2 次試験 2022 年 2 月 14 日 (月)
- ④ 合格発表日 : 第 1 次試験 2022 年 2 月 11 日 (金)
第 2 次試験 2022 年 2 月 22 日 (火)
- ⑤ 出願者数等 :

区 分	人 数
出 願 者	232 名
第 1 次試験合格者	88 名
第 2 次試験合格者 (正規)	10 名

3. 大学院 教育関連

(1) 学生数（2021 年 5 月 1 日現在）

一社会人学生数：214 人

学年次	大学院・博士課程			
	定員	在学者数		
		総数	男	女
1	60	42	33	9
2	60	53	35	18
3	60	51	34	17
4	60	76	50	26
計	240	222	152	70

(2) 入学者推移（直近 3 ヶ年）

	年度	入学者数	入学定員
大学院	2021	42	60
	2020	51	60
	2019	51	60

(3) 収容定員充足率（2021 年 5 月 1 日現在）

	定員	学生数	収容定員充足率
大学院	240	222	92.5%

(4) 教員一人当たり学生数（2021 年 5 月 1 日現在）

	教員数	学生数	教員一人当たり学生数
大学院	318	222	0.70人

4. 大学院 入試関連

(1) 2022 年度 大学院入学試験

入学試験は、前期募集については 2021 年 9 月 7 日（火）に、後期募集については 2022 年 2 月 1 日（火）に、外国語試験及び口述試験（面接）が実施され、合格者の発表は 2021 年 10 月 8 日（金）及び 2022 年 2 月 22 日（火）に行われた。

前期募集

区分	人数	内 訳							
		医 科 学 専 攻					先 端 医 学 専 攻		
		器 官 ・ 代 謝制御系	高次神経 制御系	生体応答 制御系	生体再生 制御系	環境病態 制御系	分子病態 制御系	疼痛情報 制御系	分子再生 医学系
出願者	9	2	5	2	0	0	0	0	0
受験者	9	2	5	2	0	0	0	0	0
合格者	9	2	5	2	0	0	0	0	0

後期募集

区分	人数	内 訳							
		医 科 学 専 攻					先 端 医 学 専 攻		
		器 官 ・ 代 謝制御系	高次神経 制御系	生体応答 制御系	生体再生 制御系	環境病態 制御系	分子病態 制御系	疼痛情報 制御系	分子再生 医学系
出願者	28	6	12	5	0	4	0	0	1
受験者	28	6	12	5	0	4	0	0	1
合格者	28	6	12	5	0	4	0	0	1

2021年度 自己点検・評価年次報告書

発行日	2022年3月
発行	学校法人 兵庫医科大学 兵庫医科大学 兵庫県西宮市武庫川町1-1 tel. 0798-45-6111 (代表)
制作	兵庫医科大学内部質保証会議
